最新版　タカクラ・テル（高倉輝）年譜　(1891～1986)

2025年5月25日改訂　山野晴雄

年		歳		社会の動き	出典
1891	明治24	0	4月14日、高知県高岡郡窪川村口神ノ川（くちごうのかわ）（現・四万十町）に生まれる。本名高倉輝豊。父輝房、母美弥。		1,2
			次いで同郡秋丸、のち幡多郡七郷村（ななさとむら、現・黒潮町）浮鞭（うきむち）に定住する。（戸籍では幡多郡七郷村大字浮鞭33番屋敷に出生とある）		2
			父輝房は、限地開業の医者をしていたが、うまくいかず、一時、福岡県の巡査となり、位猪金村に移住する。	1894年7月～95年3月日清戦争。	4,263
1897	30	6	4月、父親がタカクラの年齢を普通より1年早くごまかして南郷尋常小学校に入学させる（当時の修業年限は4年）。		1,4,11
			タカクラが1年のとき、父輝房は浮鞭に戻り、七郷村役場に勤める。のちに助役となる。		4,263
1901	34	10	4月、入野高等小学校に入学（当時の修業年限は2年）。		1
			高等小学1年の時、脳症を患い、寝込む。		262
1903	36	12	3月、入野高等小学校2年修了。愛媛県宇和島中学校を受験して合格。		1
			4月6日、宇和島中学入学。		281
			宇和島の眼科医の叔父（美弥の弟）・尾崎通信の書生となって通学。		1,11
			一高生・藤村操の自殺に大きなショックを受け、人生を考えるには哲学の学習が必要と痛感する。	1903年5月22日、一高生・藤村操が日光華厳滝に投身自殺。 1904年2月～05年9月日露戦争。	3
1907	40	16	7月、「魚釣日記」（宇和島中学校『校友会雑誌』第18号）を発表。		14,220
1908	41	17	3月24日、宇和島中学校5年卒業。		11,281
			医者になって金儲けをしろと主張する叔父と意見が合わず、1年間上級の学校をどこも受けず、家の手伝いをする。		4
1909	42	18	7月、親族の勧める岡山医学専門学校を受けると見せかけて、京都の第三高等学校を受験して合格。		1,5
			大学病院と道1つへ離れた東側の聖護院町の2階家に下宿する。その後、荒神橋近くの加茂川堤の上の下宿屋、銀閣寺の門前に移り、また聖護院町に戻る。		260
			9月11日、第三高等学校へ入学（第一部乙類）。		1,5
			平田禿木に英語、厨川白村に英文学を教わる。		6
1910	43	19	人生問題を解決するには哲学を勉強しなければならない、とドイツ語を必死で学習する。	6月1日、幸徳秋水ら検挙される。	1
			厨川白村の文学論の課外講義（「近代文学十講」）を受けて、文学の方へ近づく。		262
1911	44	20	5月1日、『新小説』懸賞論文（「日本の国民性と其の文学」）2等入選。	1月18日、大逆事件判決、幸徳秋水死刑。	7,14
			このころ、末川博と文芸講演会を一緒に行う。		262
1912	45	21	7月6日、第三高等学校卒業。		8
	大正 1		9月、京都帝国大学文学部英文科入学。		1,11
			主任教授上田敏、言語学を新村出、ロシア語・ロシ		

			ア文学を山口茂一に学ぶ。		3
1913	大正 2	22	5月、英文科の細田枯萍、タカクラらの発起でＫＵＤＳ（Kyoto University Drama Society、 京都大学劇協会）が結成される。成瀬無極らによる朗読会が催され、高安月郊・タカクラ・上田敏らが参加・協力する。		240,285
			10月17日～23日、芸術座地方公演（大阪若松座）の後援を秋田雨雀から頼まれ、雨雀と初めて会う。		359,360
1914	3	23	細田枯萍らとイプセン研究会を組織、京大学生集会所で、上田敏、菊池寛なども出席してディスカッションをする。		9,240
1915	4	24	卒業予定のところ、イギリス人教師と対立し、英語（シェイクスピア）の講義をボイコットし、卒業論文も出さなかったので、1年留年。		1,206
			ロシア語教室で哲学科に入学した土田杏村と知り合う。		10,206
1916	5	25	5月、 ロシアの詩人バリモントが来日、山口茂一にかわってタカクラが接待する。		11,206
			7月13日、京都帝国大学卒業。（卒業論文「グレゴリイ夫人の作物」）。		12 1,206
			新村出教授の指導のもとで、京都帝国大学法科・国際私法研究室（主任・跡部定次郎）の嘱託となる（月給30円）。		1,206
			西田幾多郎・波多野精一などの講義に出て、哲学科に入学した三木清と知り合いになる。		13
			河上肇がロシア語のことで国際私法研究室にタカクラを訪ねてくる。		265,266
			このころ､高橋貞樹がロシア語について聞きにくる。		266
			12月1日、「上方舞踊の危期」（『邦楽』創刊号）を発表。		14
1917	6	26	1月、山口茂一が組織した露国研究会の第一回会合が開かれ､「プーシキン評伝」を報告。		388
			2月10日、第2回言語研究会が京都帝大学生集会場で開かれ、山口茂一が「露語に及ぼせる多国語の影響」を報告、タカクラも出席する。		390
			3月1日～4月1日、「プーシキン評伝」（『芸文』）を発表。	ロシア、社会主義革命。	14
			7月13日～15日、「上田敏博士の追憶」を『読売新聞』に連載。		14
1918	7	27	2月1日～4月1日、「バリモント詩抄」（『芸文』）を発表。		14
			2月2日にもたれた同志社青年会館での講演会に刺激を受けた野淵昶・行方薫雄・大島豊が計画した演劇講演会の計画に伊庭孝とともに協力する。		286,287
			7月1日、上田敏『ダンテ神曲未定稿』（修文館）刊行にあたり校訂に新村出・厨川白村とともに協力する。	7月～8月、米騒動。	228,229
			夏、山内義雄と比叡山の大黒堂で過ごす。		15
			9月、友達座第2回試演でエヴレイノフ「陽気な死」（演出・土方与志、タカクラ訳「道化芝居」）が上演される。		241,242
			エラン・ヴィタール小劇場が11月15日～17日に京都大丸呉服店ホールで秋田雨雀の戯曲「少年の死」「三つの魂」を上演するにあたり、『京都日出新聞』に戯曲について文章を書く。		339
1919	8	28	6月18日～22日、エラン・ヴィタール小劇場がグレゴリー夫人作・タカクラ訳「月の出」を京都三条青年会館で公演。	2月、長谷川如是閑・大山郁夫ら、雑誌『我等』を創刊。	286,287

			夏、山内義雄と比叡山の北谷の坊で過ごす。根本中堂上の茶所前で盆踊りを催す。	4月、雑誌『改造』創刊。	15
			9月28日、 ア・デ・ルードネフ著、山口茂一訳『蒙古文典』の翻訳に助力する。		11
			10月1日、戯曲「砂丘」(『改造』) を発表（厨川白村が推薦の言葉を書いている)、初めて文壇に認められる。		11,14
			10月8日、京都市立第一商業学校露語科の嘱託講師となる。		389
1920	9	29	1月1日、戯曲「焔まつり」(『我等』) を発表。		14
			6月1日、「山口先生と自分」(『芸文』) を発表。		14
			12月1日、戯曲「孔雀城」(『改造』) を発表。		14
			このころ、「孔雀城」に感激して感想を書いてきた青森の竹内俊吉に長い手紙を書き、以後交流する。		342,203
1921	10	30	新緑のころ、成瀬無極を中心とした「文士会」が宇治の花やしきで開かれ、安田津宇と知り合う。		4
			5月10日、ロシア戯曲訳『心の劇場』(内外出版) を出版。	5月～12月、新村出、欧米各国の図書館調査のため出張。	14
			6月、土田杏村から自由大学の相談を受ける。		11
			6月30日、京都市立第一商業学校嘱託講師を辞める。		389
			7月、指導教官・新村出の海外出張中に京都帝国大学の嘱託をやめ、創作家として独立。滋賀県石山で創作活動を続ける。		11
			9月1日、戯曲「切支丹ころび」(『改造』) を発表。		14
			9月11日、石巻文化協会主催第5回思想講演会（石ノ巻町会議事堂）に土田杏村とともに講演（「聖者の心」)。		378
			9月17日、父輝房、脚気のため、鵜来島で急死（63歳)。		1
			帰郷し、故郷にいる間にロシア語の教師・山口茂一をモデルにした長編小説「蒼空」を書き始める。		11
			このころから文壇の第3次「新思潮」の芥川龍之介・菊池寛・久米正雄らによる文壇からのボイコットが始まる。	11月1日、信濃（上田）自由大学開講。	11
			12月1日～6日、信濃自由大学「文学論」を講義（上田市横町神職合議所、68名)。		16
1922	11	31	1月15日、戯曲集『女人焚殺』(アルス) を出版。		14
			3月2日～3日、踏路社が「孔雀城」を東京有楽座で公演（演出青山杉作)。	7月9日、森鴎外死去。 7月15日、日本共産党結成。 8月25日、魚沼夏季大学（自由大学）開講。	17,286
			9月ころ、 安田津宇と婚約。		18
			10月15日、長野県星野温泉に移る。		19
			11月18日～19日、踏路社、「孔雀城」を大阪中之島公会堂で公演。	11月18日、アインシュタイン来日。	286,391 392
			11月21日～22日、踏路社、「孔雀城」を京都岡崎公会堂で公演。		286,391 393
			12月5日～9日、信濃自由大学「文学論」を講義（県蚕業取締所上田支所、63名)。		16
			12月25日、安田津宇と京都四条の万養軒で結婚式を挙げ、長野県星野温泉に落ちつく。のち軽井沢千ヶ滝へ移る。		4
1923	12	32	1月17日～21日、東北文化学院（福島自由大学)「文	1月、菊地寛、「文芸春	

			学論」を講義（原町小学校、約60名）。	秋」発刊。」	16,379
			2月、文壇のボイコットによって、プラトン社から「蒼空」の掲載を破約してくる。以後、北原白秋の弟・北原鉄雄が社長をしていたアルスから単行本として出版。		
			4月10日、戯曲集『海峡の秋』（アルス）を出版。		11
			6月1日、長編小説『蒼空』（アルス）を出版。	6月9日、有島武郎、心中自殺。	14
			6月30日、安田津宇との婚姻届出。		2
			7月28日、評論集『我等いかに生く可きか』（アルス）を出版。		14
			8月6日～8日、魚沼自由大学「近代思潮論」を講義、山本宣治「性教育論」を講義（堀之内小学校、約150名）。		16
			8月 6日、婦人のための講演（「恋愛と家庭」）。		16
			8月11日～13日、岩船夏期大学（村上高等女学校）で講演（「我等は如何に生くべきか」）。		21
				9月1日、関東大震災。	
			9月27日、長女信（のぶ）生まれる。		1,4
			10月、長野県別所温泉常楽寺のはなれ（友月庵）へ移住する。		1,25
			11月初旬、信南自由大学設立につき横田憲治・平沢桂二・須山賢逸が山越脩蔵・タカクラを訪ねてくる。		22
			このころ、常楽寺の半田孝海と一緒に上田に住む倉田白羊宅を訪れる。		346,349
			12月1日～5日、信濃自由大学「文学論」を講義（県蚕業取締所上田支所）。		16
			12月16日、八海自由大学発会式「発会式に臨みて」（伊米ヶ崎小学校）、講演「文学概論」。		16
1924	13	33	1月28日～2月1日、信南自由大学「文学論」を講義（飯田町江戸町正永寺、52名）。	1月8日、信南（伊那）自由大学開講。	16
			2月 1日、伊賀良村青年会で講演「イワンの馬鹿」（90名）。		23
			2月、LYLの今村邦夫・矢沢基司がオルグのためにタカクラを訪ねてくる。	3月17日、LYL検挙事件。	279
			4月11日、宮城県石巻町での福島一郎の政見発表演説会で演説をする。		394,395
			6月15日、短編集『かうして嬰児がこの世へ生れた』（アルス）を出版。		14
			8月10日、「自由大学に就て」（伊那自由大学パンフレット『伊那自由大学とは何か』）を発表。		16
			8月15日、自由大学協会準備会をタカクラ宅で開く。		16
			8月18日～22日、魚沼自由大学「文学論（ダンテ）」を講義（堀之内小学校、約100名）。		16
			画家・宮芳平、会場に絵画約50点を陳列、タカクラと知り合う。以後、タカクラも宮芳平と交流。		331,332
			9月18日、戯曲『長谷川一家』（アルス）を出版。		14
			このころタカクラの紹介で、魚沼自由大学の運営者の一人、丸末書店番頭の中条登志雄をアルスに紹介する。		332,333
			12月10日～15日、上田自由大学「文学論」を講義（上田市役所、上田市民大学と共催）。		16
			12月16日、松本自由大学発会式に出席（松本公会堂、約200名）、講演「二つの世界」。（猪坂直一も同行）。		16
1925	14	34	1月8日～12日、伊那自由大学「文学論（ダンテ研究）」を講義（飯田町天竜倶楽部、26名）。		16

			1月 8日、伊那自由大学公開講演「所感」(百十七銀行楼上)、(猪坂直一も同行)。		16
			1月10日、「露西亜文学研究（プーシキン)」を『自由大学雑誌』に連載。		14,16
			3月15日～16日、千代村青年会文学講座で「近代の文学」を講演（大郡公会堂、50名)。	3月、治安維持法、普通選挙法成立。	214,377
			3 月28日、長野県聯合青年研究会（上田市公会堂）を猪坂直一、中沢鎌太らと傍聴する。		397
			5月15日、上田蚕糸専門学校弁論部新入生歓迎弁論大会で講演（同校講堂)、「小説は如何にして出来るか」。		380
			6月1日、京都版『クラルテ』発行、住谷悦治・河野密・阪本勝らと「クラルテ」同人となる。		225,226
			6月 6日、長編小説『阪』上巻（アルス）を出版。		14
			このころ、土佐にいる母美弥を迎えに行く。		1
			6月14日、魚沼自由大学関係者が来訪、自由大学の件で話し合う。		373
			7月1日、「熊」(『クラルテ』）を発表。		14
			9月20日、自由大学協会幹事会（別所温泉花屋ホテル）に出席。		16
			9月29日、長男太郎生まれる。		1,4
			11月21日～25日、小県郡聯合青年団幹部修養講習会（別所温泉・常楽寺）で22日、講演（「日本文化の過去現在未来」)、他に河西太一郎・河合栄治郎・半田孝海。		24
			このころから、宮芳平が泊まりに来たり、タカクラも下諏訪町に住む宮芳平のもとに泊まったりする。		332,338
			12月1日～4日、上田自由大学「仏蘭西文学」を講義（上田役所、30名)。		16
1926	15 昭和 1	35	1月10日、群馬自由大学発会式に出席（前橋臨江閣、150余名)、講演「文学の成立に就て」。(猪阪直一も同行)。		16
			2月3日～6日、伊那自由大学「ダンテ研究（続講)」を講義（飯田小学校、15名)。		16
			2月23日～26日、群馬自由大学「文学論」を講義（前橋男子師範学校)。		16
			このころ、別所村西町の古平与十郎宅に移転。		2,25,261
			3月1日、タカクラが経営のアドバイスをした浦里村の越戸農業協同経営組合の経営が始まる。		347,348
			4月、別所温泉北向観世音の大改修落慶式に燈籠（創案・土田麦遷）を寄付する。		25,344
			4月 8日、長編小説『阪』下巻（アルス）を出版。		14
			7月20日～29日、タカクラ訳「陽気な死」が築地小劇場（演出・青山杉作）で上演される。		49,242
			10月24日、川口自由大学「日本文化の過去現在及び未来」を講義（西川口小学校、約60名)。		16,385
			11月 4日、評論集『生命律とは何ぞや』(アルス）を出版。		14
			このころ、美弥が信州の冬が寒いことから土佐へ帰ることになり、神戸まで母を送る。		4
1927	2	36	1月7日～15日、「大原幽学のこと思温荘雑話」を『信濃毎日新聞』に連載。		14
			2月、長野県千代青年会の講演会で「文学史」を講演（米川公会堂、約100名)。		375,377
			3月、別所温泉柏屋別荘主人斉藤房雄の好意で、本人設計の家を建て、別所温泉を永住の地と定める。		1,25
			5月14日～23日、「心の劇場」が築地小劇場で上演される（演出・吉田謙吉)。	5月、アルス「日本児童	242

			6月18日～12月31日、長編「高瀬川」を『都新聞』に連載。	文庫」刊行開始。 5月、興文社「小学生全集」刊行開始。 7月24日、芥川龍之介自殺。	14
			10月 9日、川口自由大学「人類将来の文化（殊に宗教の位置）」を講義（西川口小学校、約70名）。		16,386
			10月16日、農民自治会南佐久連合会結成大会が臼田館で開かれ、タカクラも出席する。		264
			11月21日～26日、小県郡聯合青年団幹部修養講習会（別所温泉・常楽寺）で23日、講演（「農村青年に告ぐ」）、他に田辺忠男・蠟山政道・半田孝海。		26
			このころ、タカクラの紹介で宮芳平が上諏訪町角間にある醤油屋・宮坂安三郎の別荘に移住する。		332,338
			12月10日、『世界童話集（上）』（日本児童文庫18、アルス）を出版。		14
			12月20日、許可により輝豊を輝に改名。（改名には宮下周か協力した。）		2,4,25
1928	3	37	2月 9日、次女房（ふさ）生まれる。		1,4
			2月、上田自由大学の再建に協力する。		16,27
			2月、第16回衆議院総選挙（最初の男子普通選挙）に農民組合から立候補を勧められたが辞退する。		28
			3月4日、神科村青年婦人連合大会で講演。		29
			3月14日～16日、上田自由大学「日本文学研究」を講義（上田図書館、60名）。	3月15日、共産党員の全国的検挙（3・15事件）。	16
			4月14日、上小農民組合連合会結成式に出席（上田市公会堂）、講演（「耕す者は永遠である」）。		28
			5月21日、青木村農民組合結成式（修那羅山）で記念講演。		28
			6月18日～21日、「インテリゲンチアとは何か」を『都新聞』に連載。		14
			11月14日～15日、長唄「風流七久離の里」（タカクラ作）、「別所小唄」（閑々亭山人＝タカクラ撰）の披露会（別所劇場）が開かれる。		25,31
			11月15日～17日、三木清が上田自由大学で「経済学に於ける哲学的基礎」を講義したとき、宿泊する。		280
			11月1日～2日、千代青年会で「日本民族史」を講演（大郡、米川公会堂）。		377
			12月1日～4日、伊那自由大学千代村支部「日本民族史」を講義（千代村米川公会堂）。		16
			12月12日、全国農民組合青木村支部創立大会(青木高松屋)で演説する。		28
1929	4	38	1月10日、『チェーホフ集』（近代劇全集28、第一書房）を出版。		14
			1月21日、古里農民組合第2回総会（笹井公会堂）で講演（「農民運動の新使命」）。		28
			2月22日、ロゴス書院関係者と一緒に山本宣治と東京神田・表神保町の旅館光栄館で会う。		227
			3月1日、妻津宇の従兄山本宣治を上田駅に迎えに行く。山本宣治、別所温泉のタカクラ宅を訪れ、津宇と8年ぶりの再会。		227,259
			3月1日、上小農民組合連合会第2回大会に出席（上田市公会堂）、講演「農民運動の意義」、山本宣治「産政党代議士の議会観」。		28,30
			3月 5日、山本宣治、暗殺される。		30
			3月5日、「耕す者は永遠である」（『伊那自由大学』第１号）を発表。		16
			3月 6日、山本宣治死去の報をうけ上京。通夜に参列。		30

			3月8日、山本宣治の告別式（東京本郷仏教青年会館）に参列。		30
			3月14日、上田自由大学での講義を延期。		32,33
			3月15日、上小農民組合連合会「山本代議士追悼大演説会」（上田市公会堂）で「山本の一生及び凶刃に倒れたる最期より葬儀に列せる事実の報告」を報告。		28
			4月1日、「山本宣治のこと」（『社会及び国家』）を発表。		14
			4月 2日、和（かのう）農村研究会の創立記念講演会（和小学校講堂）で講演。		28
			4月17日～23日、「心の劇場」を新宿武蔵野館で再演（演出・土方与志、美術・吉田謙吉）。	4月16日、共産党員の全国的検挙（4・16事件）。	242
			5月1日、メーデーを記念し上小農連事務所で懇談会開催、タカクラが談話をする。		28
			5月15日～31年2月15日、『山本宣治全集』全8巻（安田徳太郎・高倉輝編集、ロゴス書院）を刊行。		14
			10月 5日、『印度童話集』（日本児童文庫14、アルス）を出版。		14
			10月29日、南佐久郡川上村青年会で講演。		34
			11月21日～24日、小県郡聯合処女会修養講習会（常楽寺）で講演（「農村問題について」）。		35
			12月6日～9日、上田自由大学「日本文学研究」を講義（海野町公会堂、28名）。		16
			12月20日～22日、伊那自由大学千代村支部「日本民族史研究」を講義（千代村米川公会堂）。		16
			12月24日、千代青年会で「日本民族史」を講演（米川公会堂）。		377
1930	5	39	1月16日、第2回東信無産派選挙対策委員会に出席。		238
			1月26日～28日、衆議院議員総選挙で青柳藤作と藤田喜作の候補者調整のため上京し、藤田喜作、三木清と会談する。		382,383
			1月28日、「農民運動のラッパ吹き拝命」（『上田毎日新聞』）を発表。		14
			1月31日、東信無産派選挙対策委員会結成式（上田市公会堂）で執行委員長に選出される。記念講演会で「農村はなぜ疲弊したか」を講演。		28
			2月1日、三木清が、衆議院議員総選挙で青柳藤作と藤田喜作の候補者調整のため、別所温泉にタカクラを訪ねてくる。		384
			このとき、三木清が東信無産派の事務所を訪れ、応援を約束する。		283
			2月2日～11日、東信無産派、タカクラ・朝倉重吉を部長とし、2班に分けた演説隊を編成し、小県郡・北佐久郡を中心に演説会を開催。		216
			3月23日、東信無産派、山宣追悼特別大演説会を開き、タカクラ、奈良正路、布施辰治、朝倉重吉が演説（上田市公会堂）。		256
			5月 1日、山本宣治記念碑除幕式がタカクラ宅の庭先で行われる。		28
			5月1日、上小地方第1回メーデー。メーデー解散後、タカクラが記念講演（上田市公会堂）。		28
			7月2日～9月5日、「百姓の唄」を『都新聞』に連載。		14
			9月9日、次男次郎が生まれる。		1,4
			この頃、上伊那郡南向村青年会幹部米沢義央らに講演（村の料理屋白木屋にて）。		381
			11月 2日、全国農民組合西塩田支部結成式（西塩田村新町劇場）で演説。	9月28日、全農上小地区	28

			西塩田村小作争議始まる。	委員会発足。	28
			11月20日、『高瀬川』（ロゴス書院）を出版。		14
			11月下旬、共産党シンパサイザー事件で懲役1年、執行猶予2年となって釈放された三木清が、タカクラの住む別所温泉に静養に訪れる。		252,273
			11月、浦里村越戸青年会（処女会と共催）で講演。	11月23日、「全農長野県連、旧上小農連合同声明書」発表。	36
			この年、諏訪の宮芳平を訪れる。芳平、タカクラの肖像画「高倉輝の像」を描く。		332 331
1931	6	40	2月12日、全農上小地区委員会第１回大会開催についてタカクラ宅で打合会を開く。		28
			4月8日、全農上小地区委員会第1回大会が上田市公会堂で開かれ、記念講演会でタカクラが「農民運動の一大変転」、布施辰治が「電灯争議を中心として」を講演。		28
			5月 1日、次男次郎、発育不全のため死亡。		1,4,37
			このころ、日本プロレタリア作家同盟上小地区の結成が進められる（タカクラ・三井広子・清水克・土屋和郎・川上史郎・中村貞友・小田英ら）。		28
			8月、伊東三郎の紹介で守屋典郎が訪ねてくる。3か月間常楽寺のはなれに住む。		38
			8月27日～28日、茨城県大洗で関口龍夫と会う。		43
			9月12日、共産党の裁判を傍聴、弁護士会館で秋田雨雀と会う。		39
			このころ、徳永直が西塩田村小作争議中のタカクラらを訪ねてる。		28,40
			9月26日、長野県議会選挙に立候補した山本虎雄の演説会で演説をする。	9月18日、柳条湖事件（「満州事変」起こる）	243
			10月30日、三女友（とも）生まれる。		1,4
1932	7	41	1月2日、全農西塩田支部新年宴会、全農支部と地主・皇国会との乱闘事件が起きる。		28
			1月 5日、全農上小地区委員会主催「西塩田村小作争議批判演説会」（西塩田村新町劇場）、タカクラ「寺と質屋」、布施辰治「西塩田村小作争議の展望」。		28
			1月15日～17日、塩尻村青年会上塩尻支会社会科学講習会（塩尻村東福寺）で17日、講演（「原始共産体の研究」）、他に山田勝太郎。		41
			1月17日、全農別所支部、女工委員会を結成。この女工委員会の組織化に関係する。		28
			1月19日、神科村古里の小作争議、古里農民組合の集会で講演。		28
			1月、共産党の拡大のため守屋典郎が真栄田（松本）三益とともに訪ねてくる。		42
			2月、騎西一夫（松本一三）、プロレタリア作家同盟オルグとして上田へ来る。		28
			2月25日、三女友、肺炎で死亡。		1,4,37
			3月19日、上田市（上田市公会堂）、中塩田村でプロレタリア作家同盟文芸講演会。		28
			3月25日、西塩田村小作争議、調停交渉が行われ、農民組合側の勝利で解決。		28
			3月、タカクラを慕って関口龍夫一家が常楽寺の別荘に6か月間移り住む。		43
			4月16日～19日、「亡児を悲む記」を『都新聞』に連載。		14
			4月、全農佐久支部の要請で布施辰治・若林忠一らとともに北佐久郡本牧村茂田井小作争議を応援。		279
			8月6日～11月16日、長編「狼」を『都新聞』に連載（検閲によって中断される）。	5月15日、犬養毅首相射殺される（5・15事件）。	14
			11月13日、布施辰治宅での晩餐会に参加。山崎今		

			朝弥・安田徳太郎・秋田雨雀ら。		39
			11月14日、日ソ文化協会主催のソ連北極探検隊歓迎会（レインボー・グリル）に出席。		39,44
			12月6日、千代青年会で「百姓は何故貧乏するか？」を講演。		377
			この年、上諏訪町湯の脇の歯科医・倉沢家の近くに住む宮芳平宅を訪れる。		332,338
1933	8	42	1月13日、上田市の全農上小地区事務所で15日のカール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルク記念日計画打ち合わせ、各情勢報告等の会合中に検束される。		45
			1月18日、南佐久郡川上村青年会で講演（川上村小学校、「百姓はなぜ貧乏するか」）。		34
			1月、赤坂区青山1丁目の安田医院（安田徳太郎）で小林杜人と会う。		46
			2月 3日、三男三郎生まれる。		1,4
			2月23日、「2・4事件」で農民組合員とともに上田署に検挙される。6か月間面会なし。		1,4
			4月末、美弥が別所温泉のタカクラ宅に戻る。		4
				4月、滝川事件。 6月、佐野学・鍋山貞親転向声明。	
			9月15日、新聞記事解禁と同時に、長野署にまわされ、はじめて妻津宇との面会を許され、その日のうちに長野刑務所に入る。		1
			10月18日、家族は長野県外へ追放となり、東京市滝野川区滝野川町1841へ移る。		4
1934	9	43	7月30日、長野刑務所から釈放され、東京の家へ帰る。		1,46
			東京地裁で懲役２年の判決を受け、ただちに控訴。		
			10月22日、東京控訴院で控訴審、小林杜人が在廷証人として出廷。		46
			10月31日、控訴審で懲役2年、執行猶予5年の判決が下る。		46,75
			12月7日～8日、新響劇場（関西大学劇研究会）がチェーホフ作「街道」（タカクラ訳）を上演。		368
1935	10	44	1月14日、「高倉君の夕」が日比谷山水楼で開かれ、秋田雨雀・上泉秀信・大宅壮一・安田徳太郎・岡田道一二・三木清・河崎なつ・田村栄・北原鉄雄・徳永直・細田源吉・三枝博音ら約20人が集まる。		47,376
			このころ高橋貞樹の執行停止運動、義援金募集運動を行う。		48
			1月28日、上野精養軒で開かれた上泉秀信の『村道』出版祝賀会に出席する。		254
			2月18日～20日、「味噌」を『都新聞』に連載。		14
			5月ころ、のちのゾルゲ事件関係者、宮城与徳と知りあう(真栄田三益の紹介による)。		4,204
			6 ～7月ころ 、真栄田三益と一緒に安田徳太郎と会う。		42,80
			7月 1日、「糞の話」（『文学評論』）を発表。		14
			9月 1日、「文学当面の問題」（『文学評論』）を発表。		14
			はじめて筆名を輝からテルに変える。		14
			9月23日～27日、「秋風たつ」を『都新聞』に連載。		14
			11月 1日、「農民文学の意義、任務」（『文学評論』）を発表。		14
			11月 4日、高橋貞樹の告別式に参列する。		47
			12月 1日、「国語国字問題の意義」（『唯物論研究』）		

			を発表。		14
			1月、築地小劇場後援会機関誌『観客』の編集に参加。		49
1936	11	45	1月19日～21日、社会時評「史的角度より」を『都新聞』に連載。		14
			2月10日ころ、大塚駅近くの山海楼で九津見房子を宮城与徳に紹介する。		365,366
			2月、2・26事件のさい、大田典礼と赤坂見附付近を歩き、情報を収集する。	2月26日、2・26事件。	50
			3月31日、長女信が神奈川県立平塚高等女学校へ入学するため神奈川県中郡国府村生沢87へ移る（河崎なつの世話による）。		4,51
			5月 1日、「綴方教育の根本問題」（『教育』）を発表。		14
			6月13日～16日、「農村に移り住んで」を『都新聞』に連載。		14
			6月28日、国語協会の第1回総会（日本工業倶楽部）に出席、会員となる。		207
			8月、神奈川県中郡大磯町東小磯316へ移る。		4,52
			8月1日～9月1日、「日本国民文学の確立」（『思想』）を発表。		14
			9月25日、ローマ字東京のお話会（東京本郷・明治製菓）で「ローマ字運動の新しいキソ」を講演。		53
			11月、新築地劇団第2期研究生を対象にした演劇講習会で、社会学を講義する。		49,247
			12月20日、『尊徳読本』（人生読本第２巻、建設社）を出版。		14
			12月25日、『芭蕉読本』（人生読本第１巻、建設社）を出版。		14
			12月30日、『綴方教育の根本問題』（東京帝国大学学生ローマ字会）を出版。タカクラ・テルの筆名をはじめて使う。		14
			この前後に佐藤正二と知り合う。		54
			1月20日、『松蔭読本』（人生読本第３巻、建設社）を出版。		14
1937	12	46	1月20日、『日蓮読本』（人生読本第５巻、建設社）を出版。		14
			2月1日、「正しいカナズカイ」（『地方文化』創刊号）を発表。		14
			2月20日、『良寛読本』（人生読本第４巻、建設社）を出版。		14
			3月、「ローマ字運動の過去・現在・未来」（『文字と言語』第11号）を発表。		14
			4月 1日、『益軒読本』（人生読本第６巻、建設社）を出版。		14
			4月ころ、日本ローマ字会に入会。		75
			6月7日、神奈川県特高課、雑誌『地方文化』関係者として召喚。		398
			7月 1日、「日本語再建」（『中央公論』）を発表。	7月7日、盧溝橋事件（日中戦争始まる）。	
			7月21日頃、斎藤秀一・大島義夫と日比谷公園で会う。		55
			9月 1日、「漢字わ日本にだけ残るか？」（『中央公論』）を発表。		14
			9月 1日、「自由大学運動の経過とその意義」（『教育』）を発表。		14
			9月27日、新築地劇団1937年度決算総会で文芸顧問団の一人に選ばれる。		49
			10月 1日、「ミイラ・取りの話」（『国語運動』）を発表。		14

			11月 1日、「教師と教養」（『生活学校』）を発表。		14
1938	13	47	1月25日、『良寛読本』（人類読本第５巻、建設社）を出版。		14
			1月25日、『益軒読本』（人類読本第６巻、建設社）を出版。		14
			3月21日、囲碁春秋社の野上彰、三木清、タカクラらで囲碁を打つ。このとき、文学者、評論家で文人囲碁会をつくる話が出る。		376
			3月27日～30日、「日支同文の意義」を『都新聞』に連載。		14
			4月1日、「支那事変と国語教育」を『教育』に発表。		14
			4月21日、「文人囲碁会」が発会、日本棋院で春季大会が開かれ、渡部義通・松本慎一・古在由重・三木清・坂口安吾・川端康成・石川達三・タカクラらが参加。		252,376
			4月27日～29日、戯曲「子もり良寛」が新築地劇団第10年記念第一公演として新宿第一劇場で上演される。千田是也演出、薄田研二・山本安英ら。		56,57
			4月28日、「国語問題と綴り方教育」（『国語・国語教育』臨時号）を発表。		14
			5月26日、国語協会第2回総会（日本工業倶楽部）に出席。		58
			6月 1日、「綴り方教育の本質」（『教育』）を発表。		14
			6月 1日、「偉大な日本人　大原幽学」（『家の光』）を発表。		14
			7月1日～7日、戯曲「子もり良寛」が新築地劇団により大阪道頓堀中座で公演される。		56,59
			7月11日、国語協会第1回国語運動懇談会（法曹会館）に出席。		60
			10月 1日、「アジアの思想とアジアの言葉」（『思想』）を発表。		14
			10月1日、「世界最初の産業組合創設者　大原幽学」（『国民思想』）を発表。		14
			10月28日、『一茶の生涯とその芸術』（ルミノ出版社）を出版。		14
			12月21日、国語協会編集委員会（同盟会館）に出席。		62
			12月26日、西田幾多郎の諸論文が三木清によってドイツ語に翻訳編纂され、「西田哲学綱要」としてドイツに渡り、タカクラが日本語に再訳されたものをローマ字に移植することになったとの記事が「読売新聞」に掲載される。		235
1939	14	48	1月10日、『大原幽学』（東邦書院）を出版。		14
			1月18日、国語協会文芸部設立につき有志懇談会に出席（法曹会館）。		63
			1月30日、国語協会第3回国語運動懇談会（法曹会館）に出席、山本有三への感想を述べる。		62
			2月6日、国語協会編集委員会（事務所）に出席。		64
			2月17日、国語協会文芸部世話人会（事務所）に出席。		64
			2月19日、『ミソ・クソ・その他』（厚生閣）を出版。		14
			3月 8日、国語協会文芸部発会式兼第一回例会（法曹会館）に出席、司会をする。		65
			3月22日、国語協会文芸部世話人会（同盟会館）に出席。		65
			4月1日、「農村教育論」（『教育・国語』）を発表。		14
			5月1日、「農村共同組合の提唱」（『中央公論』）を発表。		14

			5月17日、国語協会編集委員会（事務所）に出席。		66
			5月26日、国語協会第3回総会（日本工業倶楽部）に出席。		66
			6月 1日、「日本語の問題」（『中央公論』）を発表。		14
			6月1日、西田幾多郎「学問的方法」をローマ字書きで紹介（『中央公論』）。		14
			6月 5日、革命的ローマ字運動事件で黒滝雷助・平井昌夫・大島義夫らとともに高輪署に検挙される。		1,67
			7月 1日、「大原幽学」（『中央公論』）を発表。		14
			7月 1日、「沖縄県人の姓」（『国語運動』）を発表。		14
			7月26日、国語協会臨時理事会において、大島義夫・鬼頭礼蔵・黒滝成至・タカクラ・平井昌夫の除名が決定される。		68
			その後、留置場からローマ字で日本ローマ字会に退会届を出す。		4
			12月、釈放となり、不拘束のまま起訴される。検挙と同時に家主から立ち退きを迫られ、家族は大磯町山王町へ移る。		1
1940	15	49	3月19日、『大人の読本』（厚生閣）を出版。		14
			4月25日、『大原幽学』（建設社）を出版。		14
			このころ、東宝の衣笠貞之助監督から「大原幽学」映画化の申し込みがあったが、方言の問題で意見が合わず、取りやめになる。		4,71
			11月9日、古在由重、唯物論研究会事件で釈放になる。		
			このころから三木清の家で碁会が開かれる。古在由重・渡部義通・大内兵衛・松本慎一・甘粕（石田）石介・タカクラら。		69,252
			12月31日、長編小説『大原幽学』（アルス）を出版。		14
1941	16	50	2月18日、鎌倉姥ヶ谷の別荘に滞在中の西田幾多郎を訪ねる。3月、9月、10月にも訪れる。		61
			3月15日、「日本語の文法を」（『読売新聞』）を発表。		14
			3月18日、「国民文学の樹立へ」（『読売新聞』）を発表。		14
			3月18日、第3回農民文学有馬賞の予選、『大原幽学』が候補作となる（受賞は岩倉政治『村長日記』）。		255
			3月25日、『大原幽学伝』（建設社）を出版。		14
			4月、道路改修で家が立ち退きとなり、大磯町坂田山884番地へ移る。		1,208
			4月12日～14日、「大原幽学と天保水滸伝」を『都新聞』に連載。		14
			5月25日、「地方文化について」（『上毛新聞』）を発表。		14
			6月6日、前進座創立10周年記念記念の会（新橋演舞場）に来賓として招かれる。		217
			9月1日、「西行」（『中央公論』）を発表。		14
			9月10日、『大原幽学伝』（アルス）を出版。		14
			10月1日、「大原幽学　その現代的意義」（『開拓』）を発表。		14
			10月、「大原幽学」を金井修一座が劇化（小崎政房監督）。	9月27日、ゾルゲ事件関係者の検挙が始まる。	1,72
			11月 1日、「青銅時代」（『中央公論』）を発表。		
			11月1日、「大原幽学の村」（『同盟グラフ』）を発表。		
			このころ土門拳・青地晨らと千葉・茨城・青森を取材旅行する。		73,74,270
			11月25日、「幽学映画化について」（『時代映画』）を発表。		14

			大都映画の小崎政房監督から「大原幽学」映画化の希望があり、脚本も完成したが、内務省・憲兵隊からの「中止勧告」があり、製作中止となる。		218,234
			12月、丸ビルにある中央公論社へ木村亨を訪ねる。		258
			12月26日、革命的ローマ字事件第一審判決で、懲役２年、執行猶予５年を言い渡される。	12月8日、米・英に宣戦布告（アジア・太平洋戦争始まる）。	75
			12月28日、『本居宣長』（子供のための伝記、小学館）を出版。		14
1942	17	51	1月 1日、「グラフ特集　生まれかわる日本農村」（『中央公論』）を発表。写真土門拳。		14
			1月、警視庁特高第二課長、高倉テル・今中次麿・横田喜三郎・田中耕太郎ら20余名の執筆差し止めを総合雑誌に伝える。		77
			2月1日～5月1日、「日本農業の進む道」を『中央公論』に連載。話し手前橋真八郎、聞き手高倉テル。		14
			2月、土門拳・佐竹晴雄・柳瀬正夢と岡山県興除村へ農村調査に行く。		268,269
			2月13日～17日、 金井修一座、浅草花月劇場で「大原幽学」を上演。東海・関西地方巡演。		4,209
			このころから、前進座に出入りするようになる。		4
			3月1日、「農業の言葉」（『学燈』）を発表。		14
			3月1日、「戦時下農村を守る女性たち」（『農村文化』）を発表。		14
			4月20日、検事局に呼び出され、思想犯保護観察法の適用を言い渡される。		4
			5月20日、「新しい農民だましい」（『早稲田大学聞』）を発表。	5月16日、司法省、ゾルゲ事件を公表。	14
			5～6月、箱根、小田原、沼津一帯を訪れ箱根用水の調査を進める。（親戚で沼津商業学校長の小谷大治の援助を受ける）	6月8日、義兄の安田徳太郎がゾルゲ事件で検挙される。	4,76
			6月20日、ゾルゲ事件の宮城与徳との関係で、小林杜人の意見を聞いて警視庁に出頭、巣鴨刑務所に入る。小林杜人に相談した際、帝国更新会にいた松本（真栄田）三益と会う。		46,399
			また、丸ビルにある中央公論社の木村亨を訪ねる。		46,204
			8月20日、「嫌疑ナシ」の処分があり、釈放される。		258
			9月、発電機の掃除のため箱根用水の水を1日止めたのを利用して、2人の写真技師・5人の人夫とともにトンネル内を調査する。		4,399
1943	18	52	1月1日～5月1日、「箱根用水の話」を『中央公論』連載。		76,301
			6月5日～7月6日、移動劇団とともに朝鮮へ渡り、1か月間、前線各地を視察して帰る。		14
			このとき京城で安部一郎・寺本喜一と会う。		4,78
			7月1日、「国民演劇の明けぼの」（『中央公論』）を発表。		79
1944	19	53	2月13日、鎌倉姥ヶ谷の別荘に滞在中の西田幾多郎を訪ね、ハーサニイのガリレオ伝The Ster gasterを贈る。3月、4月にも訪れる。		14
			3月6日、安田徳太郎、東京地裁のゾルゲ事件判決で懲役2年、執行猶予5年の判決。裁判所控え室で安田と会う。		61
			5月10日、野田宇太郎が坂田山の自宅に訪ねてくる。		80
			6月 4日、『ニッポン語』（北原出版、もとのアルス）を出版。		81
			8月30日、『ニッポン語』を持参し風見章を訪ねる。		14
			このころ、大阪のＮＨＫラジオで新村出がタカクラの『ニッポン語』を激賞する。		82,83
					263,267

			このころ、長編「箱根用水」の執筆を進める。		210
			9月、三木清、埼玉県鷲宮町(現・久喜市)に疎開。		273
			10月、杉並区の三木清宅で碁会。三木清・大内兵衛・渡部義通・古在由重・松本慎一・野上彰・タカクラらが参加。		70,274
			11月 1日、「標準語確立の絶好の機会」(『少国民文化』) を発表。		14
			11月20日、八王子市郊外元八王子村にある久保田無線厚生農場で講演 (「耕す者は永遠である」)。		85
			11月23日、久保田無線厚生農場事件で岡林キヨ・関口龍夫らとともに検挙される。		84,85
1945	20	54	3月 6日、警視庁より脱走。その後、浦和市の中條登志雄を訪れる。		4,86
			3月7日～12日、山崎謙を訪れる。		244
			3月12日～13日、埼玉県鷲宮町の三木清の疎開先を訪れる。		245
			その後、青森県戸来村の大金酉蔵を訪れる。		4,246
			3月21日、埼玉県入間郡豊岡町石川源一郎方で検挙される。		86
			3月25日、巣鴨拘置所に送られる。		4,87
			3月28日、タカクラをかくまった容疑で三木清・山崎謙・中條登志雄検挙される。		86
			7月16日、空襲によって、坂田山の家が全焼、大磯町神明町へ移る。		4,215
				8月15日、「終戦」玉音放送 (敗戦)。	
			9月、A級戦犯収容のため、巣鴨刑務所から豊多摩刑務所に移される。	9月26日、三木清、豊豊多摩刑務所で獄死。	1
			10月 1日、豊多摩刑務所から釈放される。		87
			10月、金目村(現・平塚市)の医者の離れを借りる。ここで、日本の民主化に関する意見書を書き、GHQに提出する。		4
			10月15日、松本一三・志賀義雄の紹介で日本共産党に入党する。		1,88
			11月 8日、共産党「党大会の準備のための全国協議会」(国分寺・自立会) に参加。		87
			11月、長野県別所温泉の柏屋別荘主人斉藤房雄に招かれて、13年ぶりに長野県に入る。		1
			11月下旬、上田自由大学創立準備会が柏屋別荘で開かれ、出席。		89,90
			11月25日、佐久文化会主催の講演会で講演 (野沢国民学校)。		340
			11月27日、「うつりかわり」(『信濃毎日新聞』) を発表。		14
			12月1日～3日、共産党第4回党大会 (党本部)。		91
			12月15日～16日、共産党長野県党組織再建のための会議に参加 (松本・浅間温泉尾上の湯)。		92
			12月20日、「上田自由大学趣意書」を発表。		93
			12月下旬、一時、佐久病院に入院、療養する。		4
			12月24日、共産党長野県地方委員会、総選挙立補者に高倉テルを推すことに決定。		94
			12月27日～29日、上田自由大学「文学論」を講義 (上田市鷹匠町公会堂)。		95,96
1946	21	55	1月12日、民主主義科学者協会創立総会。発起人の一人となる。		213
			このころ、羽毛田正直の共産党入党の推薦人になる。		279
			1月20日、田口村農民組合創立大会記念講演会で講		

		演。		97
		2月8日、佐久病院従業員組合結成大会で講演。		97
		2月16日、神奈川県中郡大磯町大磯 884より長野県小県郡別所村大字1754（原安正の借家）へ転籍届け出。		1,25
		2月24日～26日、共産党第5回党大会（東京・一橋公会堂）。		91
		3月11日～4月10日、第22回総選挙に長野県から立候補、53,379票を獲得して当選。		28,98
		3月26日、「国民の国語運動」（代表・安藤正次）は意見書「法令の書き方についての建議」を幣原喜重郎首相宛に提出。「国民の国語運動」の発起人の1人となる。		239
		4月3日、上小農民団体協議会結成大会。		28
		4月13日～14日、共産党第3回県党会議（松本浅間温泉玉の湯）。タカクラを校長とする党学校の設立を決める。		92
		4月16日、共産党上田支部委員会に出席。		99
		5月3日～4日、上田自由大学「文学論」を講義（商工経済会上田支部）。		96,100
		5月16日、議院成立に関する集会に出席、衆議院議長・副議長候補者選挙を行う。		302
		5月17日、徳田球一・野坂参三・志賀義雄・タカクラ・柄沢とし子の5代議士が宮内省を訪れ、天皇との会見を要求するが、物別れに終わる。		249,250
		5月20日、共産党長野地方常任委員に追加選出され、文化教育部長となる。		237
		5月23日、議院成立に関する集会に出席。（議員の席次番号424）		303
		6月4日～7月4日、「塩尻農民委員会」を『文化評論』に連載。		14
		7月11日、衆議院本会議で「戦災復興促進決議」に共産党を代表して賛成演説をする。		101
		8月 1日、「天皇制ならびに皇室の問題」（『中央公論』）を発表。		14
		8月21日、衆議院委員会で「食糧緊急措置令」に対して反対意見を述べる。		102
		8月22日、衆議院本会議に出席、議長不信任決議案を審議、否決される。		304
		8月23日、衆議院委員会に出席。		305
		8月23日、衆議院本会議に出席、仮議長選挙に投票。		306
		8月24日、衆議院本会議で「帝国憲法改正案」に反対票を投じる。		300
		8月26日、衆議院委員会に出席。		307
		8月27日、衆議院委員会に出席。		308
		8月27日、衆議院本会議で「食糧緊急措置令」に共産党を代表して反対演説をする。		103
		8月28日、衆議院委員会に出席。		309
		8月29日、衆議院委員会で「農林央央金庫法の一部改正案」で質疑。		104
		9月 1日、「知識の良心」（『世界』）を発表。		14
		9月2日、衆議院委員会に出席。		310
		9月6日、衆議院本会議で「労働関係調整法案」に反対投票をする。		311
		9月14日、大野伴睦・西尾末広・三木武夫らと「科学技術の振興に関する決議案」を衆議院に提出。		312
		9月19日、自作農創設特別措置法案外一件委員となる。		315

			9月20日、衆議院委員会に出席。		313
			9月21日、衆議院委員会に出席。		314
			9月23日、衆議院委員会で「自作農創設措置法案」「農地調整法の一部改正案」で質疑。		105
			9月25日、衆議院委員会で「自作農創設措置法案」「農地調整法の一部改正案」で質疑。		106
			9月26日、衆議院委員会で「自作農創設措置法案」「農地調整法の一部改正案」で質疑。		316
			9月28日、衆議院委員会に出席。		107
			9月30日、衆議院委員会で「自作農創設措置法案」「農地調整法の一部改正案」で質疑。		108
			10月 1日、「山本宣治の死」(『政界ジープ』) を発表。		14
			10月1日、衆議院委員会に出席。		317
			10月2日、衆議院委員会に出席。		318
			10月4日、衆議院委員会に出席。		319
			10月5日、衆議院本会議で「自作農創設特別措置法案」「農地調整法の一部改正案」に共産党を代表して反対演説をする。		109
			10月7日、衆議院本会議で帝国憲法修正案の再度評決に他の共産党議員とともに反対する。		325,326
			10月19日～20日、共産党第4回県党会議（松本市公会堂)。県地方委員に選出される。		92
			10月28日～11月3日、「ことばと文学」を『アカハタ』に連載。		14
			11月3日～9日、議会報告会を野沢・臼田・小諸・岩村田・望月・松代・篠ノ井・長野などで開く。	11月3日、日本国憲法公布。	110
			11月26日、上田自由大学懇談会（柏屋別荘）に出席。		111
			12月17日、衆議院本会議で片山哲等提出の決議案（解散の奏請に関する件）に賛成投票をする。		320
			12月18日、衆議院国会法案委員となる。		321
			12月20日、衆議院委員会で「国会法案」に賛成意見を述べる。		112
			12月27日、議院成立に関する集会に出席。（議員の席次番号424)		322
1947	22	56	1月1日、信濃毎日新聞の「民主日本の新春を祝う」の統一見出しの祝賀広告に長野県選出衆議院議員一同としてタカクラも名を連ねる。		272
			2月28日、風見章、細川嘉六、西園寺公一と木挽町の料亭で会う。	1月31日、ＧＨＱ、2・1ゼネスト中止を命令。	113
			3月27日、徳田球一等と衆議院議員選挙法の一部を改正する法律案(政府提出)に対する修正案を提出。		323
			3月29日、衆議院本会議で「船舶公団法案」に共産党を代表して反対演説をする。		114
			3月30日、衆議院本会議で、衆議院議員選挙法の一部を改正する法律案に対する修正案（大野伴睦君外一名提出）に反対投票をする。		324
			3月31日～4月25日、第23回総選挙に長野２区から立候補、落選（16,785票)。		115
			5月 2日、母美弥死去（80歳)。	5月3日、日本国憲法施行。	1
			6月1日、共産党第5回長野県地方党会議で、県地方委員に選出される。		92
			8月 1日、「愛と死について」(『中央公論』) を発表。		14
			8月3日、長野県勤労文化連盟結成大会（長野市教育会館)。幹事長藤森成吉、顧問森田草平・石井柏亭・林広吉・タカクラ・有島生馬・今井登志喜ら。この前後、「ハコネ用水」執筆のため、たびたび箱		116

			根塔ノ沢福住楼に滞在する。		299
			9月5日、『青銅時代』（中央公論社）を出版。		14
			9月25日、『ニッポン語』（世界画報社）を出版。		14
			12月21日～23日、共産党第6回大会（東京・京橋公会堂）。中央委員に選出される。		91
1948	23	57	1月1日～11月1日、「ハコネ用水」を『大衆クラブ』に連載。		14
			1月10日、上小地区労文化部主催文化講演会・軽音楽の夕（上田商工ビル）で講演。		117
			2月5日、参議院長野地方区補欠選挙に立候補、落選（99,725票）。		118
			2月10日、『ミソ・クソ・その他』（美知書林）を出版。		14
			3月1日、森田草平、『ニッポン語』の所感をタカクラに送る。		119
			4月16日～21日、「ナガノ県参議院補欠選挙のけいけん」を『アカハタ』に連載。		14
			4月30日、『我等いかに生くべきか』（八雲書店）を出版。		14
			5月 4日、森田草平に共産党入党を勧める。		119
			6月29日、森田草平宅を訪れる。		119
			6月30日、『えんげき集　エンマ大王』（文化評論社）を出版。		14
			9月25日、長編小説『大原幽学（上）』（美知書林）を出版。		14
			10月20日、長編小説『大原幽学（下）』（美知書林）を出版。		14
			11月 5日、『女』（改造社）を出版。		14
			11月20日、『ニッポンの農業』（黄土社）を出版。		14
			11月20日、長野県南佐久郡田口村での演説が占領政策違反容疑とされ、北佐久郡中込町の中込機関区で懇談中にアメリカ軍に逮捕され、上田署に留置される。		120
			11月21日、上田警察署に対し 200名が釈放要求デモを行う。		121
			12月 6日、半月も取り調べもなく、マッカーサー元帥宛の抗議文と家族への遺書を残して、ハンストに入る。		122
			12月 8日、森田草平、高倉逮捕について「アッピール」を発表。		122
			12月12日、森田草平・野間宏ら、お茶の水駅前で高倉テル釈放署名を市民に訴える。若月俊一・田中策三・高倉太郎ら面会、タカクラ、輸血を承諾する		123
			12月13日、小県地区（上田）警察署から療養のため仮釈放される。		124
			12月17日、森田草平がタカクラ宅訪れる。		119
			12月18日、森田草平が泊まっている柏屋を訪れる。		119
			12月20日、佐久病院に入院、その後自宅で療養。		1,4
1949	24	58	1月 1日、「あらしは強い木をつくる」（『アカハタ』）を発表。		14
			1月10日、『大原幽学伝』（美知書林）を出版。		14
			1月30日、大内兵衛が総選挙で共産党が勝利を収めたことに対して手紙を送ってくる。	1月23日、第24回総選挙、共産党35議席獲得。	350
			1月31日、長野軍政部より「あなたは完全に自由である」との通知がある。		4
			3月3日～4日、前進座での懇談会に出席。タカクラ・テル・増山太助・宮森繁・河原崎長十郎ら。		125
			3月 7日、前進座入党式に出席。		125

			3月 9日、「前進座の入党」(『アカハタ』) を発表。		14
			4月1日～10月1日、「狼」を『世界評論』に連載。		14
			4月10日、『うたえ、わかもの』(民主青年出版部) を出版。		14
			5月、雑誌『展望』の企画で東京・東中野のモナミ清水幾太郎と対談。臼井吉見同席。対談は雑誌には掲載されなかった。		370,371
			5月15日、『愛と死について』(日本出版) を出版。		14
			5月15日、長野の教員がタカクラの自宅を訪れ、40名がタカクラの推薦で共産党に入党する。		251
			6月15日、河上肇博士記念第4回学術講演会 (明大講堂) で「二つの人生観」を講演。		126,223
			6月20日、歌舞伎を大衆のものとする観点から岡鬼太郎台本「鳴神」を改作、『歌舞伎十八番鳴神・瓜盗人・しびり　脚本と解説』出版される。		127,328
			9月15日～10月24日、前進座の中村翫右衛門ら第二班、平田兼三作「ヤジ・キタ」、タカクラ・テル作「エンマ大王」で巡演。	8月、松川事件。	128,205
			9月19日～11月18日、前進座の瀬川菊之丞ら第五班、タカクラ・テル作「けやきのちかい」、「文七元結」、歌舞伎「奥州白石噺」、「かっぽれ」で巡演。		128,205
			9月、茨城県水海道町に風見章を訪ねる。		129
			11月、前進座夜間演劇学校開校、土方与志らとともに講師となる。		128,224
			11月21日、三鷹事件の第一審第3回公判を傍聴する。		288
			11月、森田草平の容態悪化で、蔵原惟人、徳永直、宮本百合子らと救援活動を始める。		289
			12月1日～50年3月1日、「ハコネ用水」を潮流社の『潮流』に連載。		14
			12月6日、タカクラと髙倉太郎が森田草平の病室を見舞う。		119
			12月16日、「モリタ・ソーヘーさんの死」(『アカハタ』) に発表。		14
			12月16日、松川事件第一審、特別弁護人として福島地方裁判所に出廷。		4,236
			12月24日、江馬修の「山の民」の完成と還暦祝いを兼ねた祝賀会 (東中野モナミ) に出席。徳田球一・伊藤律・蔵原惟人、小山いと子・貴司山治・本郷新・藤森成吉ら70名。		329,330
1950	25	59	1月13日、福島県原ノ町で演説会。	1月 6日、コミンフォルム機関誌『恒久平和と人民民主主義のために』、オブザーバー署名の論評「日本の情勢についてを発表、いわゆる50年問題起こる	4
			1月18日、共産党第18回拡大中央委員会総会に出席。		290
			1月24日、京都市長選挙応援のため、京都の党員集会に政治局員の長谷川浩と出席する。		291
			1月25日、全京都民主戦線統一会議の結成大会(共栄会館)で演説。		130,292
			2月8日、京都市長選挙で応援した高山義三社共統一候補が当選。		230
			このとき、京都にいる新村出と会う。また、宇治の山宣の墓を訪れる。		4
			2月15日、『ハコネ用水の話』(理論社) を出版。		14
			4月15日、『うたえ　わかもの』(暁明社) を出版。		14
			5月4日～6月4日、第2回参議院選挙に鈴木東民に代わり全国区から立候補、158,797票を獲得して当選。		131,132
			5月30日、徳田球一起草「来たるべき革命における日本共産党の基本的な任務について」が「党活動方針」に発表され、全党討議に付される (タカクラが草案を全体的に修正する)。		134
			6月 6日、ＧＨＱの指令により日本共産党中央委員		

			24名の公職追放が行われ、参議院議員失格となる。		132
			6月6日、信の下宿先を引き払い、三鷹市上連雀660に移る。	6月25日、朝鮮戦争勃発。	4
			7月4日、共産党の命令で法務府特審局に出頭、取り調べを受ける。	6月～8月、ソビエト言語学界の論争で、スターリンが「マルクス主義と言語問題」を『プラウダ』に発表し、マール派を批判。	4,396
			秋、葦会編集部の早乙女勝元と会う。		275,276
			11月1日、「人民に仕える文学」（『人民文学』）を発表。	10月初め、徳田球一・西沢隆二が北京へ渡る。その後、野坂参三らも出国、「北京機関」がつくられる。	14
				12月25日、袴田里見、北京に到着。	
1951	26	60	1月 1日、「ぶたの歌」（『人民文学』）を発表。		14
			3月 5日、『ハコネ用水』（理論社）を出版。		14
			4月18日、ツウ、別所温泉から東京・三鷹市上連雀660に移転。		4,211
			5月1日、「わたしのあるいてきた道」（『人民文学』）を発表。		14
			5月25日、「言語もんだいの本質」（『季刊理論』第16号）を発表。	5月～8月、日本共産党綱領改定がモスクワで討議される。	14
			6月12日、日本民主青年団主催民族独立青年の集い（家政学院講堂）で「うたえ、わかもの」を講演。		135
			6月20日、『新文学入門』（理論社）を出版。		14
			10.月1日、『愛と死について』（葦会）を出版。	9月8日、サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約調印。	14
			10月15日、『ニッポンの女』（理論社）を出版。		14
			10月20日、『版画とローマ字　ぶたの歌』（理論社）を出版。	10月15日～16日、共産党第5回全国協議会、「51年綱領」決定。	14
			このころ、伊藤律とともに中国へ亡命（高倉太郎「年譜タカクラ・テル」の9月亡命の記述は、出入国管理令施行との関連による）。		136
			11月17日、北京に到着（伊藤律、土橋一吉同行）。	11月1日、出入国管理令施行。	134
1952	27	61	2月10日、『新ニッポン語』（理論社）を出版。		14
			2月26日、新星プロ（新星映画社）第2回作品「箱根風雲録」完成。監督山本薩夫、主演河原崎長十郎・山田五十鈴・中村翫右衛門・轟夕起子。		128
			3月13日、映画「箱根風雲録」、池袋エトワール自由ヶ丘南風座などで封切られる。		128
				5月1日、自由日本放送開始。	
				8月、「中国における日本共産党特別学校」が作られる。	
			12月、Ｉ．リヴォーワの評論「ハコネ用水－ニッポンの進歩的な文学の傑作」が雑誌『ソビエト文学』に発表される。		1
			初冬、党学校の学生選抜のため、東北地方を廻り、数多の日本人に面接。		134
			12月24日、野坂参三により在北京機関の幹部が招集され、伊藤律の隔離・査問を決める。タカクラは賛成とも反対ともつかない態度をとる。		134

1953	28	62	4月、小説「ハコネ用水」、「箱根風雲録」という題で中国語に翻訳される（蕭蕭［伊藤克]訳）。	3月5日、スターリン死去。	14,295
			6月5日、『高瀬川』（タカクラ・テル名作選1、理論社）を出版。		14
			7月 5日、『百姓のうた・狼』（タカクラ・テル名作選2、理論社）を出版。		14
			8月 5日、『チェーホフ戯曲集』（タカクラ・テル名作選6、理論社）を出版。		14
			9月10日、『文学論・人生論』（タカクラ・テル名作選5、理論社）を出版。		14
			10月5日、『日本の封建制』（タカクラ・テル名作選4、理論社）を出版。		14
			10月10日、『新文学入門』（増補新版、理論社）を出版。	10月14日、徳田球一、北京で病死。	14
			11月 5日、『大原幽学』（タカクラ・テル名作選3、理論社）を出版。		14
			ソ連作家同盟機関誌『新しい世界』第2号にＶ．ログノーワ訳「ぶたの歌」が掲載される。コンスタンチン・シーモノフ「小さな短編が語る大きな真実－タカクラ・テルの「ぶたの歌」について」を発表。		1
1954	29	63	1月、党学校（中国人民大学第二分校）設置、タカクラ、校長となる。		91,137
			小関昌司が3年間タカクラの身の回りの世話をする。		271
			小説「ハコネ用水」、ロシア語に翻訳される（Ｉ．リヴォーワ訳）。		1
1955	30	64	4月30日、「日本国民文学の確立」（『日本プロレタリア文学』第7巻、三一書房）が掲載される。		14
			7月15日、ツウ、共産党創立33周年を記念する集会（国際スタジアム、元両国国技館）に出席する。	7月27日～29日、共産党第6回全国協議会（六全協）。 8月11日、六全協記念演説会に野坂参三・志田重男・紺野与次郎の潜行3幹部姿を現す。	4
			11月8日、周口店の陳列館を見学する。		138
			このころ、北京機関に残った幹部は、袴田里見・聴波克己・宮本太郎・石田精一・河田賢治・タカクラだけとなる。	12月、自由日本放送終了。	296
1956	31	65	4月2日～6月21日、日中両国民の古い関係を知る、日本軍の野蛮な破壊を具体的に知る、中国革命の経験を学ぶ、水利・農業など中国人民の建設を具体的に知る、地方劇など中国の文化活動を具体的に知るなどを目的に、中国各地を視察。		139
			7月31日～9月29日、大連から朝鮮各地を旅行。		140
			小説「百姓の歌」、「農民之歌」という題で中国語に翻訳される（金福訳）。		1
			小説「狼」、中国語に翻訳される（金福訳）。		1
1957	32	66	3月、北京にあった党学校閉鎖。		91
			6月ころ、北京機関実質上解散。タカクラは北京機関洋館に起居する。	7月11日、袴田里見・河田賢治、帰国のため北朝鮮の新浦港を出航。	296
1958	33	67		7月23日～8月1日、共産党第7回党大会。	
			9月9日、北京機関の羅明からソ連共産党中央委員会コビジェンコ日本課長宛に、タカクラが公然化して帰国する条件を作ることを求める（日本共産党の同意も得ていた）。		294

			9月30日、日ソ親善協会でソ連で日本文学を研究している人たちに講演。		141
			10月、ソ連訪問中の古在由重と8年ぶりに会う。		252
			10月7日～11日、第1回アジア・アフリカ作家会議（ウズベック共和国タシケント）に出席。日本代表団伊藤整を団長に野間宏ら7人の文学者が出席。		141,142
			10月17日、中国AA連帯委員会の招きで中国を再訪問。		277
			10月19日、風見章と会う。		141
1959	34	68	4月15日、羽田着のインド航空機でチェコスロバキアのプラハから帰国。袴田里見・蔵原惟人・伊井弥四郎・細川嘉六・風見章・高野実ら約 100名が出迎える。警視庁より出入国管理令違反の容疑で逮捕される。		143
			4月18日、警視庁から釈放される。青柳盛雄・松本三益・高倉太郎らの出迎えをうける。代々木の党本部を訪れ、宮本顕治書記長と会う。		144
			4月24日、牛込出版協会の高倉テル歓迎会に出席。秋田雨雀、風見章、大内兵衛、平野義太郎夫妻らが出席。		201
			5月 4日、帰国歓迎会（上田市公会堂）に出席。		145
			5月2日～6月2日、 第5回参議院選挙に長野地方区から立候補、落選（65,517票）。		146
			5月24日、「中国あちこち」（『週刊わかもの』）でぬやま・ひろしと対談。		14
			5月25日、「わかい人たち」（『アカハタ』）を発表。		14
			6月 1日、「国外脱出九年間」（『文芸春秋』）を発表。		14
			9月19日、共産党文化部主催「高倉テル氏をかこむ集会」（新宿中村屋）。秋田雨雀・本多秋五・本郷新・丸木位里・丸木俊子・佐藤忠良・朝倉摂・松山樹子・山崎謙・高野実・蔵原惟人。		147,201
			9月、小説「狼」、ロシア語に翻訳される（G．ロンスカヤ訳）。		1
			9月23日、「反戦運動のために中国で命をうしなったニッポン人について」（『アカハタ』）を発表。		14
			10月17日、出入国管理令違反事件東京地裁第１回公判で冒頭陳述をする。		148
			この年、柳田邦夫・佐藤忠男らと「浪花節芸術研究会（のちの大衆芸術研究会）」を結成する。		284
			1月12日～15日、「タシケント精神」を『アカハタ』に連載。		14
1960	35	69	1月24日、ラジオ高知中村放送局で座談会「大逆事件と幸徳秋水」を収録。司会・大野武夫、坂本清馬、岩佐作太郎、神崎清、塩田庄兵衛。	1月19日、日米新安全保障条約調印。	387
			1月24日、高知県中村市（現・四万十市）での幸徳秋水50年祭（墓前祭）に出席。		212,231
			1月25日、幸徳秋水50年祭記念講演会（中村市中央劇場）。講演「幸徳秋水にまなぶ」、塩田庄兵衛「幸徳秋水の歩いた道」、神崎清「大逆事件と幸徳秋水」、岩佐作太郎「アメリカにおける秋水」。		387
			1月26日、大逆事件50周年記念講演会（高知市大丸百貨店ホール）。講演「幸徳秋水にまなぶ」。塩田庄兵衛、岩佐作太郎、神崎清。		387
			2月18日～3月2日、高知県日教組の勤評闘争を応援するため、高知県を東から西へ横断旅行。		381
			その間、2月19日から10日間、県内各地で国際情勢に関する学習会で講演をする。		232

			3月15日、共産党長野県委員会労働学校第1回講座（長野市福祉会館）で校長として開会の挨拶をする（「どー学習するか？」）。		149
			4月、勤労者山岳会の「趣意書」が作成され、発起人の1人となる。		369
			4月30日、「新安保条約の本質」（『るねさんす』）を発表。		14
			5月12日、勤労者山岳会（現・日本勤労者山岳連盟）発起の夕べ（千代田公会堂）が開かれ、顧問となる。		233,369
			5月下旬、勤労者山岳会の顧問会議に出席する（日比谷公園松本楼）。		369
			8月、横田基地のそばでの生活を体験するため、昭島市上川原町 250（現・昭和町4-6-9 ）に移転する。		1
			8月4日～9月22日、「九年ぶりに見たもの」を『アカハタ』日曜版に連載。		14
			8月10日、中国代表（劉代表）のレセプションに出席。秋田雨雀、滝沢修、山本安英ら。		201
			11月3日、ハンガリーのトルストイ・メモリアル原稿として「大トルストイから学んだもの」を執筆する。		1
			12月、「たまをあらそう」を『アカハタ』日曜版に連載。		14
			この年、柳田国男に招かれ、民俗学研究所を訪ねる。		278
1961	36	70	4月21日、訪日中国作家を椿山荘に招待、出席する。巴金、葉君健、林林、劉白羽、謝泳心、山本安英、木下順二、秋田雨雀、宮崎龍介、中島健蔵、窪川いね、壺井繁治・栄夫妻ら。		201
			5月24日、出入国管理令違反事件、東京地裁（山岸薫一裁判長）で懲役３カ月、執行猶予２年の判決。		150
			6月22日、わらび座第一班長野市公演に行き、「芸術の民族性」について講義。		341
			7月 1日、「不当な裁判に抗議する」（『前衛』）を発表。		14
			7月25日～31日、共産党第8回党大会（世田谷区民会館）。綱領討議で代議員として発言（「愛国的文化人を結集　文化面から綱領の正しさを確認」）。		151
			中央委員に選出される。		152,221
			8月5日～7日、日中友好協会第11回大会（全電通会館）で顧問の1人となる。		222
			9月22日、秋田県田沢湖町神代「わらび座」で、「ニッポン演芸の民族的要素について」と題する講演をする。		153,341
			10月1日、「日本文化の民族性から綱領の正しさ証明する」（『前衛』）を発表。		14
			12月23日、「カザミ・アキラ（風見章）さんの死（『アカハタ』）を発表。		14
1962	37	71	1月1日、「ニッポン演芸の民族的要素について」（『前衛』）を発表。	12月20日、友人風見章死去（75歳）。	14
			1月27日、東京労音主催「第1回伝統音楽研究会全国集会」（東京文化会館）で、田辺尚雄・町田嘉章らとともに特別講演、演題は「ニッポン民族とニッポン音楽」。		154
			1月29日、尾崎宏次・茨木憲『土方与志－ある先駆者の生涯－』出版記念会（東急文化会館）に出席。岩崎昶、瓜生忠夫、清水保夫、轟夕起子、東山千栄子、滝沢修、薄田研二、秋田雨雀ら約200人。		133
			春以降、大内兵衛・渡部義通・古在由重らで碁会（腐		

			儒会)。	252
			3月、早乙女勝元の結婚祝賀会に出席する。	275,276
			4月3日、ソ連対外文化連絡国家委員会議長コワレンコと会見。	293
			5月15日、秋田雨雀の葬儀に参列。	155
			5月16日、「アキタ・ウジャク（秋田雨雀）さんの死」(『アカハタ』）を発表。	14
			6月1日、「植民地文化とのたたかい」(『学習の友』）を発表。	14
			6月14日、民族芸能を守る会発足。「民族芸能の会」を上野本牧亭で開く。窪川鶴次郎・松島栄一・原太郎・加太こうじ・稲岡進・三島一ら出席。会長タカクラ、副会長小生夢坊・三島一。	156
			6月23日、「民族芸能を守る座談会」(『アカハタ』)、林家正蔵・岡本文弥・田辺南鶴・一龍斎貞花・大空ヒット・三空ますみ・小生夢坊・石井英子・タカクラ。	14
			12月1日、共産党中央委員会幹部会、東京都知事選にタカクラの擁立を決定。東京都議会議事部長室で野坂参三・春日正一とともに記者会見。	157
			12月、小説『たまをあらそう』（理論社）を出版。	14
1963	38	72	1月10日、共産党東京都委員会主催「高倉テル氏をはげます1963年赤旗びらき」(東京白金・八芳園）に出席。	158,159
			1月10日、「ゼアミ（世阿弥）の現代的意義」(『文学』）を発表。	14
			1月13日、民族芸能を守る会第4回例会（本牧亭）に出演する（「はなし」)。	257
			2月、東京労音創立10周年記念作品として民族歌劇「ヤマシロ・国一揆」の制作を委嘱され、「ヤマシロ・国一揆」(『ひびき』）を発表。	364
			2月16日、日本キューバ友好協会の創立総会（東京・国労会館)、理事に選ばれる。	219
			2月17日、東京労音主催「第2回伝統音楽研究集会」(東京文化会館)で基調報告（「労働者階級が伝統音楽をとりあげる意義」）を行う。	154,160
			2月27日、高倉テル後援会結成式（学士会館)。坂本徳松・櫛田ふき・三島一・帯刀貞代・尾崎陞・岡本文弥・山本薩夫・丸木俊子ら約 150名出席。	161
			3月9日、社会党・共産党両党間の了解が最終的に成立、都知事選に阪本勝を共同推薦することになり立候補を辞退。（３月15日に文書を発表）	162
			5月27日、日中友好協会の副会長となる。	1,367
			6月1日、出入国管理令違反事件、控訴審第１回公判。	163
			7月1日、「芸術における愛国主義と国際主義の統一」（『月刊学習』）を発表。	14
			7月、『ハコネ用水』（新装版、理論社）を出版。	14
			8月1日、「新しい共産主義と新しい厭世主義」(『月刊学習』）を発表。	14
			10月、日本チェコスロバキア協会第4回総会で、帆足計・柘植秀臣・松山茂助とともに副会長となる。	164
1964	39	73	1月1日～4日、「対談　たつ年よもやま話」を『アカハタ』に連載。タカクラ、橋浦泰雄。	14
			2月2日～4月19日、「農民闘争実録　長野県西塩田小作争議」を『アカハタ』日曜版に連載。	14
			3月29日、第1回東京労音学校の講師となる。	334
			5月14日、「佐藤春夫さんのこと」(『アカハタ』)	

			を発表。 7月11日、全国労音第3回研究集会（全電通労働会館）で、基調報告（「ニッポン音楽の歴史的特色とこれからの方向」）を行う。 9月1日、「ニッポン音楽の歴史的特色とこれからの方向」（『月刊労音』）を発表。 10月24日、民族芸能を守る会の訪中代表団を羽田空港に見送る。 11月24日～30日、共産党第9回党大会（大田区民会館）。中央委員に選出される。 これ以後、幕末から明治にかけて三多摩で活躍した車人形（地元・昭島市の造り酒屋石川家の職人・柳吉が考案した一人使いの人形。のち柳吉は八王子に移る）と結びつき、3代目古柳と近づきになる。 12月21日、函館労音の学習会に招かれ、「日本民族の進むべき道－労音の果たす役割－」を講演。		14 165,198 14 166 167 1,202 355,362
1965	40	74	1月、東京労音機関紙『ひびき』に「ニッポンの音楽」を連載（10月まで）。 1月28日、出入国管理令違反事件、控訴審（東京高裁、渡辺好一裁判長）判決で控訴棄却となる。 2月16日、野村狂言の会（宝生能楽堂）でタカクラ構成による狂言教室が行われる。3月11日まで。 2月28日、第1回東京労音民族音楽教室修了式（卒業演奏会）に平井澄子らとともに出席。 3月31日、邦楽家平井澄子、タカクラの援助で民族楽団「ふきの会」（会長田辺尚雄）を結成。 4月18日、「老舎・劉白羽の両氏にきく　日中両作家の友好と社会主義革命時代の中国文学」（『アカハタ』）。聞き手タカクラ。 4月18日、第3回労音学校の講師となる。 5月26日、東京労音第11回総会（九段会館）にメッセージを送る。 6月8日、中国民族舞踊団日本訪問の初公演を鑑賞する（文京公会堂）。 6月16日、車人形のための新曲じょうるり「佐倉義民伝（甚兵衛わたし場の段）」を執筆。 7月1日、「佐倉義民伝－甚兵衛渡し場の段－」（『月刊労音』）を発表。 8月26日、「新文学団体へのよびかけ」にこたえ参加を承諾、日本民主主義文学同盟創立大会（全電通会館）に出席する。 10月 1日、東京労音10周年記念依嘱作品として「歌劇　山城・国一揆」（『月刊労音』）を発表。 10月14日～12月1日、「歌劇　山城・国一揆」を19回公演、聴衆3万9268人。原作タカクラ、脚色村山知義、作曲小山清茂、指揮上田仁、出演多々良純・浮田左武郎・森幹太・滝沢三重子・中沢桂・成田絵智子・岡村喬生。 11月、「ヤマシロ国一揆」（『ひびき』）を発表。		14 336 363 361 14 14 170 14 171,356 14
1966	41	75	1月 1日、「座談会　『山城・国一揆』をめぐって」（『歴史評論』）。タカクラ・鈴木良一・松島栄一。 1月22日、わらび座を訪れる。 2月 1日、車人形のための音楽劇「新曲まんざい」を執筆。 5月、江州音頭による「おんど『山城・国いっき』を執筆。 9月13日、出入国管理令違反事件、最高裁第三小法廷、上告を棄却（懲役３カ月、執行猶予２年の	5月16日、中国文化大革命始まる。	14 341 14 14

			刑が確定)。		172
			10月 4日、「民族伝統の問題」(『赤旗』) を発表。		14
			10月16日、歌劇「山城国一揆」(原作タカクラ、音楽小山清茂、指揮上田仁、脚色・演出村山知義、小田清、中沢桂、成田絵智子ら) 公演 (渋谷公会堂)。		173
			10月24日～30日、共産党第10回党大会 (世田谷区民会館・大田区民会館)。中央委員に選出される。		174
1967	42	76	1月13日、車人形のためのパンフレット『新曲さんしょう太夫』を刊行。		14
			2月1日、「新曲さんしょう太夫」(『月刊労音』) を発表。		14
			2月～7月、改訂版歌劇「山城国一揆」が全国労音統一企画として全国を巡演、各地の37労音で47回公演。	2月、日中友好協会本部襲撃事件起こる。	358
			3月30日、日中友好協会笠原千鶴会長の死去にともない会長代行となる (68年2月26日まで)。		175
			4月14日、車人形のための新作じょうるり「唐人お吉」を執筆。		14
			5月14日、東京労音例会「民族楽団ふきの会と車人形による『さんしょう太夫』」(江東公会堂) で新曲「さんしょう太夫」が上演される。6月1日 (板橋公会堂) まで6回公演。		351
			5月21日、東京労音第15回総会 (日比谷公会堂) にメッセージを送る。	8月17日、恩師新村出死去 (91歳)。	352
			11月14日、芸能人の集まりで、「軍国主義復活と伝統芸能」の題で講演をする。		354
1968	43	77	2月23日、「軍国主義と『かたりもの』」(『赤旗』) を発表。		14
			6月20日、『研究資料Ｉ　ニッポン語』(民族楽団「ふきの会」) を刊行。		14
			9月14日、「新曲ツルの巣ごもり」を執筆。		14
			9月27日、東京労音９月例会 (サンケイホール) で「ツルの巣ごもり」が初演される。「かたり」(詩) タカクラ、作曲清瀬保二、演奏辻久子 (バイオリン)、平井澄子・坂井敏子 (箏)、大塩寿美子 (十七弦)、語り成田絵智子。		176
1969	44	78	2月13日、「一弦琴」(『赤旗』) を発表。		14
			5月11日、函館労音がベトナム民主共和国の全国労音代表団をつうじベトナム人民に新曲「さくら」を贈る。作詩タカクラ、作曲平井澄子。		177,362
1970	45	79	2月 1日、「人生問題から社会問題のナヤミへ」(『前衛』) を発表。		14
			3月15日、「民族と文化」(全学連中央執行委員会出版部編『知識人・文化論』全学連出版部) を発表。		14
			7月1日～7日、共産党第11回党大会 (東京都立川社会教育会館・世田谷区民会館)。中央委員に選出される。		178
			10月25日、宮下周の葬儀 (長野県浦里小学校) に倉沢美穂とともに参列する (宮下は17日に死去)。		25,345
1971	46	80	1月 1日、小説『大原幽学』(東邦出版社) を出版。		14
			1月28日、妻津宇 (ツウ) 死去 (71歳)。		179
			2月20日、『民族芸能の話 (１)』(函館労音文芸学院) を出版。		14
			3月 1日、『箱根用水』(東邦出版社) を出版。		14
			5月23日、『民族芸能・作品集 (１)』(函館労音文芸学院) を出版。		14
			9月、アニメーション映画「つるの巣ごもり」(脚本・監督篠原茂・齊藤和男、作画監督齊藤和男) が		

			自主製作され、読売ホールで上映される。	180
			10月 1日、「新曲　シカの遠音」（『文化評論』）を発表。	14
			10月 7日、「山宣記念碑の再建」（『赤旗』）を発表。	14
			10月 8日、長野県別所温泉安楽寺域に山宣記念碑が再建され、除幕式が行われる。タカクラ・テル・谷口善太郎・上小農民組合連合会・上田自由大学関係者ら 130名が参列。	181
			11月20日、『狼』（日本青年出版社）を出版。	14
1972	47	81	4月、「中江兆民・幸徳秋水など」（『日本近代文学大系　月報42』角川書店）を発表。	14
			5月1日、「箱根用水と友野与右衛門」（『日本及日本人』第1509号）を発表。	14
			5月21日、民族芸能を守る会第8回総会（台東区下谷神社）。創立10年を迎える。	182
			5月24日～6月2日、第2回タシケント・アジア・アフリカ国際映画祭で、「つるの巣ごもり」が開催地ウズベク共和国平和委員会賞を受賞。	183
			5月31日、第2回タシケント・アジア・アフリカ国際映画祭のさい、親子映画推進連絡会からベトナム代表団に映画「つるの巣ごもり」が贈られる。	184
			7月9日、東京労音第20回総会（労音会館）にメッセージを送る。	352
			この年、別所温泉で開かれた上小地域の旧青年団幹部らの集まり「和労会」に出隆とともに出席する。	20,346
1973	48	82	6月10日、『近松から何を学ぶか？』（パンフレット）を刊行。	14
			7月10日、『唐人おきち、新曲シカの遠音、新曲さくら』（パンフレット）を刊行。	14
			9月1日、「自由大学かんけいの書簡集」（山野晴雄編『伊那自由大学関係書簡』自由大学研究会）を執筆。	14
			11月14日～21日、共産党第12回党大会（目黒公会堂・品川文化会館・立川社会教育会館）。中央委員会顧問に選出される。	185
1974	49	83	1月 1日、「陳情くどき－南の島の少年のなげき」（『文化評論』）を発表。	14
			7月23日、『梅若塚について－「梅若伝説」の現代的意義』（伝統音楽研究会「きぬたの会」パンフレット）を刊行。	14
			11月10日、「梅若塚と現代」（『季刊歴史文学』創刊号）を発表。	14
1975	50	84	2月、『柳田国男さんと共産主義』（伝統音楽研究会「きぬたの会」パンフレット）を刊行。	14
			4月23日、『五木の子もり歌』（伝統音楽研究会「ぬたの会」パンフレット）を刊行。	14
			7月15日、日中友好協会の副会長となり、翌年（6月5日）、顧問となる。	186
			11月21日、東京労音例会、「ふきの会」創立10周年記念演奏会（読売ホール）で「新訂陳情くどき」「おんど山城国一揆」が上演される。	356
1976	51	85	4月25日、こぶし座創立10周年記念公演（函館市共愛会館）で、「お祝いのことば」が紹介され、車人形による新曲「まんざい」の演奏などが行われる。	362
			5月30日、「河上肇さんの思い出」（『信州白樺』第29号）を発表。	14
			このころ、日中友好協会理事長の和田一夫がよくタカクラ宅を訪れる。	343

			7月28日～30日、共産党第13回臨時党大会（立川市民会館）。		187
1977	52	86	1月25日、『でかせぎの歌』（伝統音楽研究会「きぬたの会」パンフレット）を刊行。	2月16日、友人末川博死去（85歳）。	14
			4月 1日、「でかせぎの歌」（『文化評論』）を発表。		14
			6月5日、藤森成吉の告別式に弔電を送る。		327
			10月17日～22日、共産党第14回党大会（伊豆習会館）。中央委員会顧問に選出される。		188
1978	53	87	5月20日、「自由大学のこと」（『信州白樺』第29号）を発表。		14
			5月、山宣没50周年記念事業実行委員会結成のよびかけ人の一人となる（よびかけ人代表は住谷悦治、結成は9月16日）。		248,253
			8月19日～20日、土曜会・同志社山宣会・長野山宣会の「山宣を偲ぶ研究会」が別所温泉・柏屋別荘で開かれ、祝電を送る。		372
			12月15日、東京労音例会、「ふきの会」公演（立川市民会館）。『新曲　さんしょう太夫』（パンフレット）を刊行。		14
			10月 7日、東京労音例会、「ふきの会」公演（八王子市民会館）。『新曲　佐倉義民伝』（パンフレット）、『新曲　まんざい』（パンフレット）を刊行。		14
1979	54	88	2月26日～3月1日、共産党第15回党大会（伊豆学習会館）。中央委員会顧問に選出される。		189
1980	55	89	9月17日、檜山音鑑例会、こぶし座創立15周年記念公演（江差町体育館）。「新曲さくら」、車人形による「佐倉義民伝－甚兵衛わたし場の段－」など。	2月8日、友人平野義太郎死去（82歳）。 5月1日、友人大内兵衛死去（91歳）。	362
			11月 8日、東京労音例会、「ふきの会」創立15周年記念演奏会（立川市民会館）。『でかせぎの歌、おんど山城・国いっき、新曲「さくら」』（パンフレット）を刊行。		190,14
			11月28日、『蝉丸神社について』（パンフレット）を刊行。		14
1981	56	90	2月2日、「平野義太郎さんのこと」（平野義太郎人と学問編集委員会編『平野義太郎－人と学問』大月書店）を発表。		14
			7月20日、「恩師・新村出先生」（新村猛編『美意延年』新村出遺著刊行会）を発表。		14
			10月31日～11月1日、自由大学運動60周年記念集会（長野県別所温泉柏屋別荘・上田市公民館）に出席。		191,192
			11月1日、「自由大学がわたしを変えた（自由大学の生徒がわたしの先生になった）」（『自由大学運動60周年記念誌』）を発表。		14
1982	57	91	1月 1日、「故郷を思う」（『高知民報』）を発表。		14
			3月22日、日本文学協会近代部会の青木信雄らがタカクラ宅を訪問。		282
			6月18日、倉沢美徳がタカクラ宅を訪れる。		25
			7月11日、民族芸能を守る会第18回総会（台東区宋雲院）。創立20年を迎える。		193
			7月27日～31日、共産党第16回党大会（伊豆学習会館）。中央委員会顧問に選出される。		194
1983	58	92	2月、「ちり紙の原稿－「二・四事件」の思いで」（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟長野支部編『歴史への証言－「二・四事件」と治安維持法』）を発表。		14
			8月7日、早乙女勝元が昭島市主催の平和集会に招かれた際、タカクラ宅を訪れる。		275
			10月10日、「自由大学のこと」（自由大学研究会編		

			『自由大学運動と現代』信州白樺社）を発表。		14
			12月10日、「わかものたちへの絶対の信頼」（『わが人生論』高知編（上）、文京図書出版）を発表。		14
1984	59	93	3月12日～16日、東京労音例会、「ふきの会」と車人形による「唐人おきち」初演（浅草公会堂・品川公会堂・久保講堂）。		195
			3月21日、こぶし座創立19周年記念公演（函館市民会館）、車人形による「佐倉義民伝－甚兵衛わたし場の段－」など。		362
			7月、「カワカミ・ハジメ先生のこと」（『河上肇全集』月報27）を発表。		14
			8月11日、こぶし座、第20回矢臼別平和盆踊りで「無言劇テング退治」を初演。髙倉太郎・三多摩車人形育てる会も参加。		362
1985	60	94	3月、タカクラを訪れたこぶし座の三戸真澄の演出による「無言劇テング退治」に助言をする。		362
			4月10日、「序文」（上小農民運動刊行会編『長野県上小地方農民運動史』）を発表。		14
			6月13日、こぶし座創立20周年記念公演（函館市民会館）。「無言劇テング退治」「さんしょう太夫－鳥おい歌の段－」など。髙倉太郎・三多摩車人形育てる会・川瀬いとしらも参加。		362
1986	61	94	4月2日、午後2時30分、膵臓ガンのため昭島相互病院で死去（94歳）。		196
			4月4日、自宅で告別式。		197
			5月14日、高知県幡多郡大方町（現・黒潮町）浮鞭の墓地に納骨。		1
			5月18日、共産党中央委員会・長野県委員会主催「故タカクラ・テル氏を偲ぶ会」（上田市別所相染閣）開かれる。		199
			8月1日、遺稿「国語・国字改革運動にたいする私の態度」が日本ローマ字教育研究会主催第37回ローマ字教育全国大会（東京青山会館）において佐藤正二により朗読される。		200

＊高倉太郎「年譜タカクラ・テル」（2014年3月14日最終稿）を参考に加筆・修正を加えて作成したものです。
高倉太郎氏に感謝いたします。

タカクラ・テル（高倉輝）年譜　出典一覧

1　高倉太郎「年譜タカクラ・テル」（2014年）。
2　高倉輝「戸籍抄本」。
3　タカクラ・テル「人生問題から社会問題のナヤミへ」（『前衛』第304号、1970年2月）。
4　タカクラ・ツウ「私の歩いてきた道（自伝草稿）」（1955年）。
5「官報」第7832号（1909年8月3日）。
6　高倉テル「ミイラ取りの話」（『国語運動』第１巻第3号、1937年）。
7　高倉輝「日本の国民性と其文学」（『新小説』第16年第5巻、1911年5月号）。
8　「官報」第8716号（1912年7月9日）。
9　成瀬無極『無極集』（成瀬先生記念刊行会、1959年）。
10　上木敏郎『土田杏村と自由大学運動』（誠文堂新光社、1982年）。
11　山野晴雄「若き日のタカクラ・テル－作家への道－」（桜華女学院高等学校『紀要』第4号、2008年）。
12　「官報」第1188号（1916年7月17日）。
13　タカクラ・テル「ミキ・キヨシ」（『文学論・人生論』タカクラ・テル名作選Ｖ、理論社、1953年）。
14　山野晴雄「タカクラ・テル著作目録」（2018年）。
15　山内義雄『遠くにありて』（毎日新聞社、1975年、講談社文芸文庫、1995年）。
16　山野晴雄「自由大学運動年譜」（『自由大学研究』別冊2、自由大学運動60周年記念誌、1981年）
17　寺田太郎編「青山杉作年譜」（青山杉作追悼記念刊行会編『青山杉作』同刊行会、1957年）。
18　高倉ツウ「夫とともにたたかいぬいた妻の人生」（新婦人しんぶん編『母の歴史』鳩の森書房、1970年）。

19　山越修造（脩蔵）宛高倉輝書簡（1922年10月15日付）。
20　猪坂直一『回想・枯れた二枝－信濃黎明会と上田自由大学－』（上田市民文化懇話会、1967年）。
21　『新潟毎日新聞』（1923年8月7日付）。
22　横田憲治宛山越脩蔵書簡（1923年11月9日付、山野晴雄編『伊那自由大学関係書簡』自由大学研究会、1973年、所収）。
23　長野県特別高等警察課『県下ニ於ケル社会運動概要』第二輯青年運動（1931年）。
24　横沢要「講習会便り」（『神科時報』第14号、1925年12月15日）。
25　倉沢美徳『別所温泉の高倉テルさん』（信濃教育会出版部、1987年）。
26　西川至善「講習会出席について」（『泉田時報』第23号、1928年1月5日）。
27　山野晴雄「大正デモクラシーと民衆の自己教育運動」（『季刊現代史』第8号、1976年）。
28　上小地方農民運動刊行会『長野県上小地方農民運動史』（同刊行会、1985年）
29　「高倉先生を迎えて村青年婦人連合大会」（『神科時報』第41号、1928年3月15日）。
30　佐々木敏二『山本宣治』下（汐文社、1976年）。
31　『別所時報』第35号（1928年12月10日）。
32　上田自由大学「自由大学期日変更ノ件通知」（1929年3月12日）。
33　『上田毎日新聞』（1929年3月14日）。
34　大串隆吉「新潟高等農民学校から青年団自主化運動へ」（『教育科学研究』第10号、1991年）。
35　「小県聯合処女会修養講習会」（『神科時報』第62号、1929年12月15日）。
36　井沢元次「高倉先生の講演」（『浦里村報』第93号、1930年12月10日）
37　高倉輝「亡児を悲しむ記」（『都新聞』1932年4月16日～18日）。
38　守屋典郎『社会科学への思索』（青木書店、1975年）。
39　『秋田雨雀日記』第2巻（未来社、1965年）。
40　徳永直「山宣サンの記念碑の畔で日本最初の桑畑争議」（『文学新聞』第2号、1931年11月1日）。
41　『北信毎日新聞』（1932年1月13日）。
42　守屋典郎「「聞き書き」と戦前史の真実」（『文化評論』1976年6月号）。
43　『水仙の咲く家』第2号（関口竜夫・菊子記念文集、1982年）。
44　高倉輝「ソェート・ロシヤ　北極探検隊の話」（『別所時報』第69号、1933年1月10日）。
45　『上田毎日新聞』（1933年1月17日）。
46　小林杜人『「転向期」のひとびと』（新時代社、1987年）。
47　『秋田雨雀日記』第3巻（未来社、1966年）。
48　『日本政治新聞』年月日不詳（高橋貞樹『特殊部落一千年史』近代文芸資料復刻版叢書第7集、世界文庫、1968年）。
49　千田是也『もうひとつの新劇史』（筑摩書房、1975年）。
50　太田典礼『反骨医師の人生』（現代評論社、1980年）。
51　中沢鎌太宛高倉テル転居通知葉書（1936年4月2日）。
52　中沢鎌太宛高倉テル移転通知葉書（1936年9月5日）。
53　『国語運動』第１巻第5号（1937年12月号）。
54　さとう正二『秋風急なり』（コスモス通信社、1996年）。
55　佐藤治助『吹雪く野づらに－エスペランティスト斎藤秀一の生涯－』（鶴岡書店、1997年）。
56　森信三『新劇史のひとこま－新築地劇団レポート－』（花曜社、1984年）。
57　新築地劇団「第十年記念第一公演　新宿第一劇場」プログラム。
58　『国語運動』第2巻第7号（1938年7月号）。
59　新築地劇団「子もり良寛・女人愛詞　中座」プログラム。
60　『国語運動』第2巻第9号（1938年9月号）。
61　西田幾多郎全集』第17巻（岩波書店、1966年）。
62　『国語運動』第3巻第2号（1939年2月号）。
63　『国語運動』第3巻第3号（1939年3月号）。
64　『国語運動』第3巻第4号（1939年4月号）。
65　『国語運動』第3巻第5号（1939年5月号）。
66　『国語運動』第3巻第7号（1939年7月号）。
67　内務省警保局　『特高月報』1939年6月分。
68　『国語運動』第3巻第8号（1939年8月号）。
69　古在由重『戦中日記』古在由重著作集第6巻（勁草書房、1967年）。
70　野上彰『囲碁太平記』（河出書房、1963年）。
71　「巻末年表」（　『大原幽学』タカクラ・テル名作選Ⅲ、理論社、1953年）。
72　『都新聞』（1941年10月3日）。
73　「土門拳」（『私の履歴書』文化人8、日本経済新聞社、1984年）。
74　アサヒカメラ編集部編『土門拳　その周囲の証言』（朝日ソノラマ、1980年）。

75 司法省刑事局『思想月報』第90号（1941年12月）。
76 タカクラ・テル「あとがき」（『箱根用水』東邦出版、1978年）。
77 法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』（別巻、太平洋戦争下の労働運動、労働旬報社、1965年）。
78 タカクラ・テル「国語・国字改革運動にたいする私の態度（3）」（『RÔmazi no Nippon』第404号、1986年11月1日）。
79 安部一郎「京城で会った人たち」『鰈　安部一郎詩集』（木犀書房、1966年）。
80 安田徳太郎『思い出す人びと』（青土社、1976年）。
81 野田宇太郎『灰の季節』（修道社、1958年）。
82 風見章「日記　昭和19年4月起」（北河賢三・望月雅士・鬼嶋淳編『風見章日記・関係資料』みすず書房、2008年）
83 須田禎一『風見章とその時代』（みすず書房、1965年）　。
84 内務省警保局　『特高月報』1944年11月分。
85 関口竜夫「終戦前後」（「水仙の花咲く家」号外、第23号、1984年）。
86 内務省警保局「特高月報昭和20年1～6月分原稿」（明石博隆・松浦総三編『昭和特高弾圧史』2、知識人に対する弾圧下、太平出版社、1975年）。
87 タカクラ・テル「豊多摩刑務所」（社会運動史的に記録する会編『獄中の昭和史　豊多摩刑務所』青木書店、1986年）。
88 タカクラ・テル氏より聴取（1984年7月17日）。
89 山越脩蔵氏より聴取（1984年8月24日）。
90 山越脩蔵・山越完吾氏より聴取（1979年9月1日）。
91 日本共産党中央委員会『日本共産党の70年』上巻（新日本出版社、1994年）。
92 県党史編纂委員会『開放をもとめて　日本共産党長野県党のあゆみ』（日本共産党長野県委員会、1984年）。
93 「上田自由大学趣意書」（1945年12月20日）。
94 『信濃毎日新聞』（1945年12月26日）。
95 信濃毎日新聞』（1945年12月27 日）。
96 「上田自由大学会計簿」（大槻宏樹編『山越脩蔵選集－共生・経世・文化の世界－』前野書店、2002年）。
97 南佐久農民運動史刊行会『南佐久農民運動史（戦後編）』（同刊行会、1990年）。
98 『信濃毎日新聞』（1946 年4 月13 日）。
99 『信濃毎日新聞』（1946 年4 月19 日）。
100 『信濃毎日新聞』（1946 年5 月1 日）。
101 「官報」号外（第90回帝国議会衆議院議事速記録第15号、1946年7月12日）。
102 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令（許諾を求める件）委員会議録（速記）第10回」。
103 「官報」号外（第90回帝国議会衆議院議事速記録第36号、1946年8月28日）。
104 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令（許諾を求める件）委員会議録（速記）第15回」。
105 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外一件委員会議録（速記）第9回」。
106 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外一件委員会議録（速記）第10回」。
107 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外一件委員会議録（速記）第11回」。
108 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外一件委員会議録（速記）第14回」。
109 「官報」号外（第90回帝国議会衆議院議事速記録第52号、1946年10月6日）。
110 『信濃毎日新聞』（1946 年11 月3日、11月6日）。
111 山越脩蔵宛案内状（高倉テル・山越完吾・小宮山量平連名、1946年11月26日、大槻宏樹編『山越脩蔵選集－共生・経世・文化の世界－』前野書店、2002年）。
112 「第91回帝国議会衆議院国会法案委員会議録（速記）第2回」。
113 風見章「手記「昭和21（22）年2月末G・H・Q行」・「余録」」北河賢三・望月雅士・鬼嶋淳編『風見章日記・関係資料』みすず書房、2008年）。
114 「官報」号外（第92回帝国議会衆議院議事速記録第30号、1947年3月30日）。
115 『第二十三回衆議院議員総選挙一覧』（衆議院事務局、1948年）。
116 『信濃毎日新聞』（1947 年8月4 日）。
117 『信濃毎日新聞』（1948 年1月8 日）。
118 『朝日新聞』（1948年2月7日）。
119 『森田草平選集』第5巻・日記（理論社、1956年）。
120 『アカハタ』（1948年11月23日）。
121 『アカハタ』（1948年11月24日）。
122 『アカハタ』（1948年12月12日）。
123 『アカハタ』（1948年12月14 日）。
124 『アカハタ』（1948年12月15 日）。
125 『アカハタ』（1949年3月9 日）。
126 河上肇博士記念第4回学術講演会ポスター（法政大学大原社会問題研究所所蔵）。

127 青木繁「ドラマの全体像をもとめて－前進座の古典演目－」(『歌舞伎　研究と批評』42、2009年)。
128 中村翫右衛門『劇団五十年　わたしの前進座史』(未来社、1980年)
129 『アカハタ』(1949年9 月30 日)。
130 福家崇洋「京都民主戦線についての一試論」(京都大学人文科学研究所『人文学報』第104号、2013年)。
131 鎌田慧『反骨　鈴木東民の生涯』(講談社、1989年)。
132 『朝日新聞』(1950年6月7日)。
133 『アカハタ』(1962年1月31 日)。
134 渡部富哉監修・伊藤律書簡集刊行委員会編『生還者の証言　伊藤律書簡集』(五月書房、1999年)。
135 日本民主青年団主催民族独立青年の集いポスター（法政大学大原社会問題研究所所蔵)。
136 タカクラ・テルより聴取（1982年8月6日)。
137 「歴史家、犬丸義一会員に聞く－中国密航から文化大革命まで－」(『』アジア・アフリカ研究）第50巻第2号、2010年)。
138 タカクラ・テル「中国旅行記」(1955年)。
139 タカクラ・テル「中国旅行記」(1956年)。
140 タカクラ・テル「朝鮮旅行記」(1956年)。
141 タカクラ・テル「中国滞在記」(1958年)。
142 タカクラ・テル「タシケント精神」(『アカハタ』1960年1月12日～15日)。
143 『アカハタ』(1959年4月17日)。
144 『アカハタ』(1959年4月20日)。
145 『アカハタ』(1959年5月8日)。
146 『昭和34年度版　第五回参議院議員選挙一覧』(参議院事務局、1959年)。
147 『アカハタ』(1959年9月21日)。
148 タカクラ・テル「わたしは抗議する」(『アカハタ』1959年10月27日～29日)。
149 タカクラ・テル「どー学習するか？」(『前衛』1960年11月号)。
150 『アカハタ』(1961年5月25日)。
151 『アカハタ』(1961年7月30日)。
152 『前衛』第187号（1961年9月臨時増刊号)。
153 タカクラ・テル「ニッポン演芸の民族的要素について」(『前衛』1962年1月号)。
154 東京労音運動史編さん委員会編『東京労音運動史1953～2000年』(東京労音、2004年)。
155 『アカハタ』(1962年5月16日)。
156 『アカハタ』(1962年6月17日)。
157 『アカハタ』(1962年12月2日)。
158 東京都委員会主催「高倉テル氏をはげます1963年赤旗びらき」(『前衛』1963年3月号)。
159 『アカハタ』(1963年1月12日)。
160 『アカハタ』(1963年2 月23 日)。
161 『アカハタ』(1963年2月28日)。
162 『アカハタ』(1963年3月15日)。
163 『アカハタ』(1963年6 月3 日)。
164 佐川吉男「日本チェコ協会・日本スロバキア協会小史」(http://home.att.ne.jp/gold/czsk/kyoukai/shousi,html)　2003年1月11日閲覧。
165 東京労音運動史編さん委員会編『東京労音運動史年表1953～1992』(東京労音、1994年)。
166 『アカハタ』(1964年10月25日)。
167 『アカハタ』(1964年12月1日)。『前衛』第231号（1965年1月臨時増刊号)。
168 『アカハタ』(1965年1月31日)。
169 降矢美彌子「日本伝統音楽の近代化・現代化に関わる一考察－平井澄子の実践から－(4)」(『福島大学教育学部論集』第53号、1993年)。
170 『民主文学』創刊号（1965年12月号)。
171 飯田和弘「歌劇「山城国一揆」の見どころ」(『アカハタ』1965年10月13日)、関忠亮「歌劇「山城・国一揆」の音楽」(『アカハタ』1965年10月26日）など。
172 『アカハタ』(1966年9月15日)。
173 「ベルトロのオペラの旅」(http://basilio.web.fc2.com/hovisto/1963.html）2018年7月3日閲覧。
174 『アカハタ』(1966年10月31日)。
175 『日中友好新聞』第530号（1967年4月24日)。
176 『赤旗』(1968年10月10日)。
177 『赤旗』(1969年5月21日)。
178 『前衛』第312号（1970年8月臨時増刊号)。
179 『赤旗』(1971年1月30日)。
180 神宮輝夫「映画　つるの巣ごもり」(『赤旗』1971年9月14日)。

181 『赤旗』(1971年10月10日)。
182 『赤旗』(1972年5月26日)。
183 『赤旗』(1972年6月22日)。
184 『赤旗』(1972年6月23日)。
185 『前衛』第363号(1974年1月臨時増刊号)。
186 『赤旗』(1975年7月16日)、『日中友好新聞』(第974号、1976年6月26日)。
187 『前衛』第400号(1976年9月臨時増刊号)。
188 『前衛』第419号(1977年12月臨時増刊号)。
189 『赤旗』(1980年3月2日)。『前衛』第450号(1980年4月臨時増刊号)。
190 「ふきの会」(立川市民会館)パンフレット。
191 『信濃毎日新聞』(1981年11月1日朝刊)、『朝日新聞』(長野県版、1981年11月1日朝刊、11月2日朝刊)など。
192 自由大学研究会編『自由大学運動と現代－自由大学運動60周年記念集会報告集－』(信州白樺社、1983年)。
193 『赤旗』(1982年7月16日)。
194 『前衛』第484号(1982年9月臨時増刊号)。
195 『赤旗』(1984年3月11日)。
196 『赤旗』(1986年4月3日)。
197 『赤旗』(1984年4月5日)。
198 『ひびき』(第131号、1964年8月号)。
199 日本共産党中央委員会・長野県委員会「タカクラ・テル偲ぶ会」(1986年5月18日)、 『赤旗』(1986年5月9日)。
200 『Romazi no Nippon』第402号(1986年9月1日)。
201 『秋田雨雀日記』第5巻(未来社、1967年)。
202 平井澄子「貴重な文化遺産、車人形」(『文化評論』第149号、1973年12月号)。
203 竹内俊吉・淡谷悠蔵対談集『青森に生きる』(毎日新聞青森支局、1981年)。
204 タカクラ・テルより聴取(1980年11月22日)。
205 グラフ前進座編集委員会『グラフ前進座』創立70周年記念(劇団前進座、2001年)。
206 タカクラ・テルより聴取(1981年11月21日)。
207 『国語運動』第１巻第1号(1936年8月号)。
208 深町英夫宛高倉テル書簡(1942年2月7日)。
209 深町ヒデオ(英夫)宛高倉テル書簡(1942年2月16日)。
210 深町英夫宛タカクラ・テル書簡(1944年8月6日)。
211 フカマチ・ヒデオ(深町英夫)宛タカクラ・ツウ書簡(1951年3月30日)、深町広子宛高倉ツウ書簡(1951年5月16日)。
212 「幸徳秋水刑死50年祭でのタカクラ・テルの決意表明」(1960年1月24日)。
213 柘植秀臣『民科と私－戦後一科学者の歩み－』(勁草書房、1980年)。
214 清水迪夫「下伊那の青年たちが招いた講師－大正後期から昭和初期(三)－」(『伊那』第61巻第12号、2013年12月号)。
215 高倉信宛高倉ツウ書簡(1945年7月22日)。
216 安田常雄『日本ファシズムと民衆運動－長野県農村における歴史的実態を通して－』(れんが書房新社、1979年)。
217 『前進座』(第17号、1941年11月)
218 『しなりを　大原幽学』(大都映画株式会社)
219 「日本キューバ友好協会50年のあゆみ」(2013年、http://www.aajc.la.coocan.jp/pdf/AAJC-50years-YUM.pdf)2018年7月16日閲覧。
220 宇和島中学校『校友会雑誌』(第18号、1907年7月)。
221 『アカハタ』(1961年8月1日)。
222 『日本と中国』第326号(1961年8月11日・12日合併号)。
223 『アカハタ』(1949年6月7日)。
224 『アカハタ』(1949年10 月13日)。
225 『クラルテ』第1号(1925年6月1日)。
226 「古本夜話212　クラルテ社『クラルテ』、吉田文治と更生閣、高橋貞樹『被差別部落一千年史』」(「出版・読書メモランダム」出版と近代文化史をめぐるブログ、http://odamitsuo.hatenablog.com/entry/20120627/1340722866)2018年7月29日閲覧。
227 高倉輝「山本宣治のこと」(『社会及び国家』第157号、1929年4月)。
228 「故上田博士「ダンテ神曲」の出版」(『芸文』第9巻第9号、1918年9月)。
229 新村出「ダンテ回想」(『ダンテ学会誌』第1巻、1951年)。
230 タカクラ・テル「恩師・新村出先生」(新村猛編『美意延年　新村出追悼文集』新村出遺書刊行会、1981年)。

231 「幸徳秋水墓前祭の記」(『るねさんす』第144号、1960年3月)。
232 タカクラ・テル「新安保条約の本質」(『るねさんす』第145号、1960年4月)。
233 『ろうさんニュース』第19号(2010年7月30日)。
234 渡邉武男『巣鴨撮影所物語』(西田書店、2009年)。
235 『読売新聞』(1938年12月26日)。
236 松川事件公判記録「第6回公判調書」(松川事件弁護団常任世話人会編『松川事件公判記録　第1審　1』同会、1960年)。
237 共産党長野地方常任委員会「指令　1946.5.20」(山崎稔氏旧蔵文書、大原社会問題研究所所蔵、横関至「1940年代後半における社会党と共産党の共闘－社共共闘により社会党員知事が誕生した長野県を事例として－」『大原社会問題研究所雑誌』第646号、2012年8月、所引)。
238 『北信毎日新聞』(1930年1月18日)。
239 「法令の書き方についての建議」(1946年3月26日、入江俊郎文書17「憲法口語化関係資料」の内、国立国会図書館所蔵)、平井昌夫『国語国字問題の歴史』(三元社、1998年)。
240 依岡隆児「関西における新劇運動試論－ドイツ演劇の受容を中心に－」(徳島大学総合科学部『言語文化研究』第9号、2002年)。
241 高倉輝『心の劇場』(内外出版、1921年)。
242 武田清『新劇とロシア演劇－築地小劇場の異文化接触－』(而立書房、2012年)。
243 増田恵一郎「昭和六年の日記」1931年9月26日(増田恵一郎『農村の春　遺稿集』1976年、自費出版)。
244 山崎謙『紅き道への標べ』(たいまつ社、1975年)。
245 三木洋子「疎開していた頃」(三一書房編集部編『回想の三木清』三一書房、1948年)。
246 大金酉蔵「高倉テル氏のこと」(『新文明』第2巻第11号、1952年11月)。
247 八田元夫「わが演劇的小伝」(民主評論編集部『新劇の40年』民主評論社、1949年)。
248 「旧友・土曜会の老闘士」(http://www.kyoto-minpo.net./yamasen/archives/2009/05/33_1.php) 2018年11月28日閲覧。
249 『アカハタ』(1946年5月21日)。
250 『朝日新聞』(1946年5月18日)。
251 『アカハタ』(1949年1月21日)。
252 岩倉博『ある哲学者の軌跡　古在由重と仲間たち』(花伝社、2012年)。
253 『山宣研究』第5号(1980年5月)。
254 中山雅弘『上泉秀信の生涯』(歴史春秋社、2014年)。
255 「農民文学有馬賞受賞作一覧」(http://prizesworld.com/prizes/novel/arma.htm) 2018年12月4日閲覧。
256 『上田毎日新聞』(1930年3月21日)。
257 タカクラ・テルより聴取(聞き取りノート、1982年10月26日)。
258 松坂まき編『横浜事件　木村亨全発言』(インパクト出版会、2002年)。
259 高倉ツウ「遙かなる思ひ出」(『婦人公論』1931年6月号)。
260 高倉輝「京都」(『詩と音楽』震災紀念号、1923年9月)。
261 高倉輝「別所温泉」(『アルスグラフ』第2巻第5号、1926年5月号)。
262 タカクラ・テルより聴取(1983年9月20日)。
263 高倉太郎氏のメモによる(高倉太郎氏より聴取、1983年9月20日)。
264 南佐久農民運動史刊行会編『南佐久農民運動史(戦前編)』(南佐久農民運動史刊行会、1983年)。
265 タカクラ・テル「カワカミ・ハジメ先生のこと」(『河上肇全集月報』27、岩波書店、1984年)。
266 タカクラ・テル「カワカミ・ハジメ」(『文学論・人生論』タカクラ・テル名作選V、理論社、1953年)。
267 タカクラ・テル「国語・国字改革運動にたいする私の態度(3)」(『Romazi no Nippon』第404号、1986年)。
268 深町英夫宛高倉テル書簡(1942年2月7日)。
269 梅田欽治・甲斐繁人「聞き書き　松岡朝子さんに聞く　柳瀬正夢－出会い・結婚、そして戦時下の生活・仕事－」(『歴史評論』第520号、1993年8月号)。
270 阿部博行『土門拳　生涯とその時代』(法政大学出版局、1997年)。
271 「アーカイブス　中国残留孤児・残留婦人の証言　早期帰国者で身元引受人、自立指導員を経験した小関さん」(http://kikokusya.wixsite.com/kikokusya/blank-4)、2018年5月8日閲覧。のち「証言47　太平山開拓団八路軍　帰国後自立指導員　小関昌司さん(石川県)」(藤沼敏子『WWⅡ　50人の奇跡の命－満蒙開拓青少年義勇軍・従軍看護婦・軍人・サハリン残留・沖縄・台湾・満洲からの早期帰国者－』津成書院、2021年)に収録。
272 『信濃毎日新聞』(1947年1月1日)。
273 枡田啓三郎「三木清年譜及著作目録」(三一書房編集部編『回想の三木清』三一書房、1948年)。
274 豊島与志雄「三木清を憶ふ」(三一書房編集部編『回想の三木清』三一書房、1948年)。
275 早乙女勝元「高倉輝さんをしのぶ」(『民主文学』1986年6月号)。
276 早乙女勝元「てのひら自叙伝」(早乙女勝元自選集『愛といのちの記録』第12巻、1992年、草の根出版会)。

277 「ＲＰニュース」第2537号（1958年）。
278 タカクラ・テル『柳田国男さんと共産主義－たんじょう百年のために－』（伝統音楽研究会「きぬたの会」、1975年）。
279 大井隆男『農民自治運動史－転換期の青年群像－』（銀河書房、1980年）。
280 高倉テル「知識の良心」（『世界』第9号、1946年9月号）。
281 愛媛県立宇和島東高等学校沿革史編集委員会編『開校百年・創立八十周年記念宇和島東高等学校沿革史』(1976年)。
282 青木信雄編「タカクラ・テル年譜」（『近代文学研究』創刊号、1984年）。
283 松本衛士「治安維持法と長野県」（『治安維持法と長野県』治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟長野県本部、1988年）。
284 加太こうじ「大衆芸術研究会」（『思想の科学』第6次、第116号、1980年）。
285 成瀬無極『面影草』（北隆館、1947年）。
286 松本克平『日本新劇史－新貧乏物語－』（筑摩書房、1966年）。
287 大岡欽治「京都エラン・ヴィタール小劇場の歩んだ道」（『日本演劇学会紀要』第18号、1979年）。
288 『アカハタ』(1949年11月22日)。
289 『アカハタ』(1949年11月24日)。
290 『アカハタ』(1950年1月29日)。
291 『夕刊京都』(1950年1月27日)。
292 『アカハタ』(1950年2月10日)。
293 不破哲三『日本共産党に対する干渉と内通の記録－ソ連共産党秘密文書から－』上巻(新日本出版社、1993年)。
294 下斗米伸夫『日本冷戦史－帝国の崩壊から55年体制へ－』（岩波書店、2011年）。
295 伊藤克『悲しみの海を越えて』（講談社、1982年）。
296 国谷哲資「北京追想－若者が体験した戦後日中関係秘史－」（広島大学『アジア社会文化研究』第20号、2019年）。
297 袴田里見『私の戦後史』（朝日新聞社、1978年）。
298 レコード民族楽団ふきの会15周年記念(ビクター音楽産業、1981年)。
299 澤村みどり「お宿帳(十二)－北条秀司先生書簡、タカクラ・テル氏－」（『塔之沢文芸』終刊号、1999年）
300 「官報」号外（第90回帝国議会衆議院議事速記録第35号、1946年8月25日）。
301 タカクラ・テル「まえがき」（『ハコネ用水の話』潮流社、1950年）。
302 「第90回帝国議会衆議院議事速記録号外」(1946年5月16日)。
303 「第90回帝国議会衆議院議事速記録号外」(1946年5月23日)。
304 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院速記録第33号、1946年8月23日)。
305 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令(許諾を求める件)委員会議録(速記)第11回」(1946年8月23日)。
306 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院議事速記録第34号、1946年8月24日)。
307 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令(許諾を求める件)委員会議録(速記)第12回」(1946年8月26日)。
308 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令(許諾を求める件)委員会議録(速記)第13回」(1946年8月27日)。
309 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令(許諾を求める件)委員会議録(速記)第14回」(1946年8月28日)。
310 「第90回帝国議会衆議院食糧緊急措置令(許諾を求める件)委員会議録(速記)第64回」(1946年9月2日)。
311 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院議事速記録第41号、1946年9月6日)。
312 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院議事速記録第45号、1946年9月20日)。
313 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第7回」(1946年9月20日)。
314 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第8回」(1946年9月21日)。
315 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院議事速記録第46号、1946年9月22日)。
316 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第13回」(1946年9月28日)。
317 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第15回」(1946年10月1日)。
318 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第16回」(1946年10月2日)。
319 「第90回帝国議会衆議院自作農創設特別措置法案外1件委員会議録(速記)第17回」(1946年10月4日)。
320 「官報」号外(第91回帝国議会衆議院議事速記録第11号、1946年12月18日)。
321 「官報」号外(第91回帝国議会衆議院議事速記録第13号、1946年12月20日)。
322 「第92回帝国議会衆議院議事速記録号外」(1946年12月27日)。
323 「官報」号外(第92回帝国議会衆議院議事速記録第29号、1947年3月29日)。
324 「官報」号外(第92回帝国議会衆議院議事速記録第31号、1947年3月31日)。
325 「官報」号外(第90回帝国議会衆議院議事速記録第54号、1946年10月8日)。
326 和田春樹『歴史としての野坂参三』（平凡社、1996年）。
327 『藤森成吉追悼集』（日本国民救援会、1977年）。
328 前進座文芸部編『歌舞伎十八番鳴神・爪盗人・しびり－脚本と解説－』（前進座文庫1、美知書林、1949年）。
329 『徳田球一記念の会々報』第27号(1988年12月)。

330 『アカハタ』(1949年12月25日)。
331 宮芳平・堀切正人編『宮芳平自伝－森鷗外に愛された画学生M君の生涯－』(求龍堂、2010年)。
332 小島初子『天寵残影－宮芳平伝－』(冬芽社、1999年)。
333 渡辺泰亮「魚沼・八海両自由大学便り」(『自由大学雑誌』第1巻第2号、1925年2月)。
334 『ひびき』第127号(1964年4月号)。
335 『ひびき』第136号(1965年1月号)。
336 『ひびき』第138号(1965年3月号)。
337 『ひびき』第139号(1965年4月号)。
338 前田忠史・野地耕一郎・左近充直美・松矢国憲・澤田龍太郎編、練馬区立美術館企画・監修『宮芳平画文集－野の花として生くる。－』(求龍堂、2013年)。
339 行方薫雄「母校英文科から起ったエラン・ヴィタール小劇場」(『同志社時報』第57号、1976年3月)。ただし、「京都日出新聞」(マイクロフィルムによる)の掲載記事は未発見である。
340 小崎軍司『長野県文化史年表』(ヤマダ画廊、1977年)。
341 創立30周年記念誌編纂委員会『日本の歌　民族の舞－わらび座の30年－』(民族歌舞団わらび座、1982年)。
342 『竹内俊吉集成「竹内俊吉の時代」』(青森放送、1988年)。
343 髙倉太郎「父と和田一夫さん」(「和田一夫・追悼集」刊行委員会編『日中友好に生きる－和田一夫・遺稿と追悼集－』光陽出版社、1988年)。
344 『信濃毎日新聞』(1926年4月8日)。
345 庄司俊作「優良更正村浦里村長宮下周言行録（3）－「昭和の農村」再構成のために－」(『社会科学』第80号、2008年)。
346 半田孝海和上米寿記念会編『楽土荘厳』(半田孝海和上米寿記念集、非売品、1973年)。
347 『浦里村報』(第39号、1926年3月10日)。
348 庄司俊作「現代転換期の農村と社会主義－長野県浦里村長宮下周の軌跡を通して－」(『キリスト教社会問題研究』第56号、2008年)。
349 小崎軍司『山本鼎・倉田白羊－生涯と芸術－』(上田小県資料刊行会、1967年)。
350 春名幹男『秘密のファイル（上）－CIAの対日工作－』(共同通信社、2000年)。
351 『ひびき』第164号(1967年5月号)。
352 『ひびき』第165号(1967年6月号)。
353 『ひびき』第227号(1972年8月号)。
354 タカクラ・テル『伝統芸能の話（1)』(函館労音文芸学院叢書(1)、函館労音文芸学院、1971年)。
355 函館労音「会員一人ひとりが学習意欲をもつようなサークル活動をすすめよう－タカクラ先生を迎えた学習会－」(『月刊労音』第85号、1965年3月号)。
356 東京労音運動史編さん委員会編『東京労音演奏会記録集－1953～1994年の例会プログラム－』(東京労音、2003年)。
357 『ひびき』第137号(1965年2月号)。
358 市野宗彦「歌劇『山城国一揆』の記録」(小山清茂『日本の響きをつくる－小山清茂の仕事－』音楽之友社、2004年)。
359 タカクラ・テル「アキタ・ウジャク（秋田雨雀）さんの死」(『アカハタ』1962年5月16日)。
360 田中栄三編『明治大正新劇史資料』(演劇出版社、1964年)。
361 タカクラ・テル「共産党は音楽と舞踊を人民のものにかえた」(『アカハタ』1965年6月19日)。
362 國田修司編『北に、生きる心むすんで－民族歌舞団こぶし座40年の歩みと作品－』(民族歌舞団こぶし座、2005年)。
363 『ひびき』第116号(1963年5月号)。
364 『ひびき』第113号(1963年2月号)。
365 石堂清倫編『ゾルゲ事件』第4巻、(現代史資料24、みすず書房、1971年)。
366 牧瀬菊枝編『九津見房子の暦－明治社会主義からゾルゲ事件－』(思想の科学社、1975年)。
367 『アカハタ』(1963年5月25日)。
368 大岡欽治『関西新劇史』(東方出版、1991年)。
369 戸田囹雄「『日本勤労者山岳連盟』小史－その(1)創立から三回総会まで－」(『登山研究』第4号、1978年12月)。
370 臼井吉見『蛙のうた－ある編集社の回想－』(筑摩叢書188、1972年)。タカクラ・テルと清水幾太郎の対談の日時を1950年5月としているが、松川事件は1949年であり、49年5月と判断した。
371 『清水幾太郎著作集15　この歳月』(講談社、1993年)。
372 小田切明徳「山宣を偲ぶ別所研究会」(『信州白樺』第30号、1978年)。
373 『自由大学雑誌』第1巻第6号(1925年6月)。
374 大串隆吉「長野県下伊那郡旧千代村役場青年教育関係資料と解説」(『人文学報』第130号、1978年)。
375 清水迪夫「下伊那の青年たちが招いた講師(大正後期から昭和初期)(三)」(『伊那』第61巻第12号、2013年12月号)。

376 『三木清全集』第19巻、岩波書店、1968年。
377 清水米男編『千代青年会々史』(千代青年会、1934年)。
378 『河北新報』(1921年9月11日)。
379 『福島民報』(1922年12月27日)。
380 上田蚕糸専門学校『校友会雑誌』第13号(1926年1月15日)。
381 内藤佼子「青年訓練所と青年会－長野県上伊那郡南向村の昭和恐慌前後における－」(『信濃』第34巻第3号、1982年3月)。
382 『信濃毎日新聞』(1930年1月28日)。
383 『信濃毎日新聞』(1930年1月29日)。
384 『信濃毎日新聞』(1930年2月2日)。
385 『北越新報』(1926年10月13日)。
386 『北越新報』(1927年10月5日)。
387 塩田庄兵衛「社会運動史の旅」(『労働運動史研究』第20号、1960年)。
388 桧山真一「山口茂一の写真」(『むうざ』第30号、2016年)。
389 桧山真一「山口茂一のこと」(『むうざ』第33号、2022年)。
390 「彙報　言語研究会」(『芸文』第8年第3号、1917年3月)。
391 クラブ石鹸広告チラシ裏面「慈善二部公演　復興せる東京踏路社　大劇場　演出と講演会」(1922年)。
392 『京都日出新聞』(1922年11月20日夕刊)。
393 『京都日出新聞』(1922年11月21日朝刊)。
394 土田杏村宛高倉輝の手紙（1924年4月29日)。
395 『河北新報』(1924年4月11日)。
396 『読売新聞』(1950年7月5日)。
397 「中沢鎌太日記」(1925年3月28日条)
398 齊藤秀夫「京浜のプロレタリア文学運動(2)」(『横浜市立大学論叢　人文科学系列』第43巻第3号、1993年)。
399 内務省送致係『昭和十三年以降　事件送致参考簿』(1938年～45年、国立公文書館所蔵)。